

薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査(2004年)

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センタ - 精神保健研究所薬物依存研究部長
研究協力者 近藤あゆみ 同上(賃金研究員) 高橋伸彰 同上(流動研究員)
鈴木紀美子 同上(研究助手)
尾崎米厚 鳥取大学医学部 環境予防医学 助教授
勝野真吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

研究要旨 中学生における薬物乱用の広がりを把握し、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料に供するために、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。対象は、層別一段集落抽出法により選ばれた全国212校の全生徒である。その結果、147校(対象校の69.3%)より、65,611人(対象校212校の全生徒想定数の61.4%)の回答を得た。有効回答数は65,552人(対象校212校の全生徒想定数の61.3%)である。その結果、以下のような結論を得た。

有機溶剤乱用の生涯経験率は、男子では1.3%(1年生1.2%、2年生1.1%、3年生1.6%)、女子では1.0%(1年生0.9%、2年生1.0%、3年生1.0%)、全体では1.1%(1年生1.1%、2年生1.1%、3年生1.3%)であった。この結果は、男女合わせた全体では、1996年に開始した一連の本調査の中では、1996年調査とともに最低の値であった。ただし、男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後が危惧される結果であった。有機溶剤乱用の目撃率は性別に関わらず、1996年以降、着実に低下しており(全体で11.8%から5.6%)、「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから着実に減少していた(全体で5.4%から3.3%)。また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は、男子では1998年調査以降減少傾向にあり、今回の調査では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。以上を総合すると、有機溶剤乱用の勢いは、確実に弱くなってきていると考えられるが、女子における今後が危惧される結果であった。有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の共有時間が少ない傾向が伺われた。

結局、有機溶剤経験者群は、相対的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推測することができよう。また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。これまでの一連の本調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、有機溶剤の乱用による害としての急性中毒死、多発神経炎、精神病に関しては、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が男女ともに多いという結果が初めて出た。これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、「望むべき姿」であり、生涯経験率の低下も考慮すれば、薬物乱用防止教育の成果が着実にできていると考えられる。しかし、歯の腐食に関しては、2002年調査の男子で、「知っている」と答えた者が有機溶剤非乱用経験者群の方が多いという結果が初めて出たにも関わらず、今回の2004年調査では経験者群の方が多いという従来型に逆戻りしてしまったり、無動機症候群、フラッシュバック現象では、相変わらず従来型のままであったりし、なお一層の薬物乱用防止教育の推進が望まれるところである。大麻の生涯経験率は、男子で0.6%(1年生0.4%、2年生0.7%、3年生0.7%)、女子で0.4%(1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.5%)、全体で0.5%(1年生0.4%、2年生0.5%、3年生0.6%)であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.5%

(1年生0.4%、2年生0.6%、3年生0.7%)、女子で0.4%(1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.4%)、全体で0.5%(1年生0.3%、2年生0.5%、3年生0.6%)であった。大麻に関しては男女を問わない全体では、1998年に記録した最高値(0.7%)よりは低い、2002年調査の結果と同じであった。覚せい剤に関しては、1998年に記録した最高値(0.5%)と同じ結果であり、2002年調査の結果よりは0.1%増加していた。性別では、大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は2002年調査とほぼ同じであった。大麻及び覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、増加傾向にあり歓迎されるが、そもそもの周知度自体が高いとは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その入手可能性は大麻や覚せい剤よりは高かった。しかし、2004年調査では、その入手可能性はこれまでになく激減していた。また、大麻、覚せい剤の入手可能性は1998年以降、着実に増加していたが、今回の2004年調査では、激減していた。これらは、この間の取り締まりの強化による成果の可能性が高い。ただし、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が、大麻でも覚せい剤でも男女ともに66%であるのに対して、有機溶剤乱用経験者群では、大麻に関しては男子で46%、女子で52%の者が、また、覚せい剤に関しては男子で46%、女子で54%の者が入手可能を選択していた。わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用すると言うことは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を強く示唆する結果であった。さらに、覚せい剤の入手可能性は有機溶剤乱用経験者群女子で最も高いという結果であった。女子に対する対策が望まれるところである。薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響すると考えられる。喫煙については全体の10.8%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関してそれを選んだ者は2.4%に過ぎず、大麻では1.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。また、有機溶剤乱用経験者群の25%の者に大麻乱用の経験があり、24%の者に覚せい剤乱用の経験があり、有機溶剤乱用と大麻・覚せい剤乱用との間には強い結びつきがあることが認められた。同時に、喫煙経験と有機溶剤乱用経験との間にも結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

(なお、2002年調査の報告書から、有機溶剤、大麻、覚せい剤乱用の生涯経験率、1年経験率、目撃率、乱用者周知率、生涯被誘惑率については、「無回答」を除いて計算し直した値を文章上は採用することにした。その結果、表での値と異なることがある。)

A. 研究目的

第3次覚せい剤乱用期にある2002年、薬物乱用により精神障害をきたして精神病院を受診した患者のうち、約19%は有機溶剤乱用が主原因であり、約55%は覚せい剤乱用が主原因であった¹⁾。ただし、覚せい剤乱用が主原因であった者の約44%には、有機溶剤の乱用歴があった¹⁾。この有機溶剤と覚せい剤との強い繋がりは、第2次覚せい剤乱用期での関係と同じであり²⁾、覚せい剤の入手可能性の高まりの中で、有機溶剤乱用の経験なしに、いきなり覚せい剤乱用を始める若者の増加が推定される第3次覚せい剤乱用期においても、有機溶剤乱用が依然として重要な役割を担っていることを示唆している。

すなわち、わが国では、飲酒・喫煙を除けば、

有機溶剤の乱用が精神医療の面からみて、その後の覚せい剤乱用への門を開く「ゲイトウェイ・ドラッグ」³⁾としての役割を相変わらず担っている可能性が高いと推定される。

この有機溶剤乱用は、14歳から16歳で開始されることが多く⁴⁾、予防対策上は中学生が重要である。したがって、中学生における有機溶剤乱用(「シンナー遊び」)の実態を把握し、有機溶剤乱用に関連するハイリスク・ファクターを特定することは、わが国における薬物乱用防止対策上、不可欠である。

同時に、中学生における喫煙、飲酒は、有機溶剤乱用と強い関係を有していると推定され³⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾²⁾、中学生における喫煙と飲酒の一部が有機溶剤乱用開始ないしは継続への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高い³⁾²²⁾。

以上の考えから、平成16年度、平成8年度に初めて実施した、「薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査」¹⁰⁾の第5回目調査を実施し、薬物乱用防止対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究方法

調査は、下記方法によって選ばれた対象校で、原則として、2004年10月中（一部11月～12月中）に、全生徒による自記式調査として実施した。

対象校の抽出方法には層別一段集落抽出法を用いた。抽出に用いたデータベースは、2004年版の全国学校総覧¹¹⁾である。どの都道府県からも最低

1校は抽出されるようにするために、都道府県を層とし、中学生数に比例して都道府県毎に対象校の抽出を行った。すなわち、中学生数の最も少ない鳥取県での調査校数を1とし、その他の都道府県での調査校数は、鳥取県の生徒数との比に従って、切り上げで決定し、その後、各都道府県での対象校数を2校以上確保するために、鳥取県での調査対象校数を2に変更した。

対象校の抽出は、各都道府県毎に、上記の手続きで決定された数の中学校を全中学校から無作為で抽出した。その際、データベースとして使用した全国学校総覧¹¹⁾が、2001年版から「国公立編」「私立編」の2冊で構成されるようになったため、都道府県毎に国公立中学校数と私立中学校数との

表1 対象校の分布と回答状況

	対象校	回答校	実施率(%)		対象校	回答校	実施率(%)
北海道	9	4	44.4	京都	4	4	100.0
青森	3	2	66.7	大阪	13	3	23.1
岩手	3	3	100.0	兵庫	9	6	66.7
宮城	4	4	100.0	奈良	3	0	0
秋田	2	2	100.0	和歌山	2	2	100.0
山形	2	0	0	鳥取	2	1	50.0
福島	4	4	100.0	島根	2	2	100.0
茨城	5	5	100.0	岡山	3	3	100.0
栃木	4	4	100.0	広島	5	3	60.0
群馬	4	4	100.0	山口	3	2	66.7
埼玉	10	6	60.0	徳島	2	0	0
千葉	9	7	77.8	香川	2	1	50.0
東京	15	12	80.0	愛媛	3	2	66.7
神奈川	12	5	41.7	高知	2	1	50.0
新潟	4	3	75.0	福岡	8	6	75.0
富山	2	2	100.0	佐賀	2	2	100.0
石川	2	2	100.0	長崎	3	3	100.0
福井	2	2	100.0	熊本	4	3	75.0
山梨	2	2	100.0	大分	2	2	100.0
長野	4	3	75.0	宮崎	2	1	50.0
岐阜	4	4	100.0	鹿児島	4	1	25.0
静岡	6	4	66.7	沖縄	3	3	100.0
愛知	11	9	81.8				
三重	3	2	66.7	全体	212	147	69.3
滋賀	3	1	33.3				

割合を算出し、その割合に基づいて国公立中学校数と私立中学校数とを決め、それぞれ、学校毎の生徒数に比例して抽出確率を決める確率抽出法を用い、実際の抽出には乱数を使用した。

本調査では、抽出された学校の全生徒を調査対象としたので、層別一段集落抽出法と呼ぶ。この場合の集落とは学校を指し、層は都道府県と国公立・私立の2種類があることになる。

この操作により、全国の中学校から212校（想定106,892人）が選ばれた。

調査用紙には氏名等個人を特定できる項目はなく、学年、性別、日常生活の規則正しさ、学校生活、家庭生活、友人関係、喫煙について、飲酒について、「シンナ - 遊び」について、大麻乱用について、覚せい剤乱用について、薬物の入手し易さについての全51項目から構成されている。この調査項目は2000年調査時のものと同じである。

調査用紙は教師によって生徒に配られた。記載の終わった生徒は、同時に配られた個人用封筒に調査用紙を入れ、封をし、あらかじめ用意されたクラス毎の回収用封筒に個人用封筒を投函した。各学校はクラス用回収封筒をとりまとめて当研究所に郵送し、各封筒は当研究所にて初めて開封された。

212校（国立7校、公立196校、私立9校）中、調査を実施していただけた中学校は147校（国立6校、公立135校、私立6校：対象校の69.3%）であった。そのうちの8校については、学年・クラスを限定した実施であった。その内訳は、各学年1クラスずつのみの実施1校、1年生のみの実施2校、2年生のみの実施1校、3年生のみの実施2校、2年生3年生のみの実施校1校、1年生3年生の全員と2年生の一部のクラスのみの実施1校であった。

以上の結果、65,611人（想定生徒数の61.4%。ただし、全国学校要覧による生徒数と実際の生徒数は一致しないため、正確な%は不明である）の調査用紙が回収されたが、うち59通は、明らかな

記載上の不備、または記載項目が全51問の50%を満たしていなかったため無効とした。したがって、有効回答は65,552人（想定生徒数の61.36%）である。

また、中学生における有機溶剤乱用の生涯経験率は、昼夜人口比の低い地域で高く、喫煙・飲酒の生涯経験率は持ち家率の高いところで高いことが指摘されており¹⁹⁾、それなりの地域格差の存在が推定される。そこで、今回の調査が全国の中学生を対象にしながらも、全国を代表していない可能性もあるため、都道府県毎の回答状況を表1に示した。表1の実施状況が今回の調査結果にどのような影響を及ぼしているかは不明であるが、本調査の限界として、表1を見ておく必要がある。

有効回答の内訳は表2の通りである。男子33,150人、女子32,344人、性別不明者20人の計65,552人である。

その結果、以下の各表では、全体は男性 + 女性 + 性別不明者になっている。結果の検定に当たっては、項目毎に回答の「無回答」を除外し、それぞれの項目毎に当該薬物の経験者群（以下、経験者群）と非経験者群（以下、非経験者群）とについて²検定をおこなった。

C. 研究結果

1. 「シンナ - 遊び」について

1. 有機溶剤乱用の広がりについて

(1) 「シンナ - 遊び」の生涯経験率について

性別・学年別の「シンナ - 遊び」の生涯経験率（これまでに1回でも「シンナー遊び」をしたことがある者の率）は表3の通りである。

生涯経験率は男子で1.3%（1年生1.2%、2年生1.1%、3年生1.6%）、女子で1.0%（1年生0.9%、2年生1.0%、3年生1.0%）であり、全体では1.1%（1年生1.1%、2年生1.1%、3年生1.3%）であった。

表2 対象の内訳

	1年		2年		3年		全体	
男性	11081	(51.2)	10783	(50.2)	11286	(50.4)	33150	(50.6)
女性	10544	(48.7)	10698	(49.8)	11102	(49.5)	32344	(49.3)
無回答	20	(.1)	18	(.1)	20	(.1)	58	(.1)
全体	21645	(100.0)	21499	(100.0)	22408	(100.0)	65552	(100)

また、男子の生涯経験率は、学年による有意差 ($P < 0.05$) が認められたが、女子では認められなかった。これまでの1996年調査¹⁰⁾、1998年調査¹³⁾、2000調査²⁰⁾では、男女ともに学年と共に生涯経験率が高くなる傾向が認められたが、今回の調査でも、2年生男子を除けば、概ね同様の傾向は認められた。

なお、生涯経験率の推移については、考察で論じる。

(2) 「シンナ - 遊び」の1年経験率について

この1年間での「シンナ - 遊び」の経験率(1年経験率)は表4の通りである。

表3 これまでに1回でも「シンナー遊び」を経験したことがある率(生涯経験率)

		1年		2年		3年		全体	
男性	経験なし	10857	(98.0)	10580	(98.1)	11017	(97.6)	32454	(97.9)
	経験あり	128	(1.2)	118	(1.1)	174	(1.5)	420	(1.3)
	無回答	96	(.9)	85	(.8)	95	(.8)	276	(.8)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 10.504$, $df = 2$, $p = .005$)									
女性	経験なし	10374	(98.4)	10539	(98.5)	10949	(98.6)	31862	(98.5)
	経験あり	98	(.9)	107	(1.0)	112	(1.0)	317	(1.0)
	無回答	72	(.7)	52	(.5)	41	(.4)	165	(.5)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = .390$, $df = 2$, $p = .823$)									
全体	経験なし	21249	(98.2)	21136	(98.3)	21981	(98.1)	64366	(98.2)
	経験あり	228	(1.1)	226	(1.1)	290	(1.3)	744	(1.1)
	無回答	168	(.8)	137	(.6)	137	(.6)	442	(.7)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 7.621$, $df = 2$, $p = .022$)									

表4 この1年間に「シンナー遊び」を1回でも経験したことがある者の率(一年経験率)

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	10941	(98.7)	10650	(98.8)	11113	(98.5)	32704	(98.7)
	ある	86	(.8)	84	(.8)	116	(1.0)	286	(.9)
	無回答	54	(.5)	49	(.5)	57	(.5)	160	(.5)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 5.466$, $df = 2$, $p = .065$)									
女性	ない	10438	(99.0)	10588	(99.0)	11001	(99.1)	32027	(99.0)
	ある	72	(.7)	78	(.7)	74	(.7)	224	(.7)
	無回答	34	(.3)	32	(.3)	27	(.2)	93	(.3)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = .334$, $df = 2$, $p = .846$)									
全体	ない	21397	(98.9)	21256	(98.9)	22131	(98.8)	64784	(98.8)
	ある	160	(.7)	162	(.8)	193	(.9)	515	(.8)
	無回答	88	(.4)	81	(.4)	84	(.4)	253	(.4)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 2.522$, $df = 2$, $p = .283$)									

男子で0.9%（1年生0.8%、2年生0.8%、3年生1.0%）、女子で0.7%（1年生0.7%、2年生0.7%、3年生0.7%）であり、全体では0.8%（1年生0.7%、2年生0.8%、3年生0.9%）であった。

男性では学年が進むにしたがって高くなり、女子では学年に関係なく一定であった。

(3) 「シンナー遊び」の目撃について

「あなたは、『シンナー遊び』をしているところを実際に見たことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表5に示した。

男子の5.4%、女子の5.8%の生徒が実際に見たことがあるという結果であった。同時に、男子の2年生を除けば、基本的には、男女ともに、学年が進むにつれて見たことのある者が増えていく傾向が示唆された。

なお、この目撃率の推移については考察で論じる。

(4) 身近での「シンナー遊び」経験者の存在について

「あなたの身近に、『シンナー遊び』をしている人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表6に示した。

男女ともに、約3～4%の者が「いる」と答えており、学年が進むに従って、「いる」と答えた者の割合が有意に（ $P < 0.01$ ）高くなっていくことが示唆された。しかも、男子よりも女子に多い傾向は以前の同種の調査と同じであった¹⁰⁾¹³⁾²⁰⁾²¹⁾。

なお、上記の年次推移については考察で論じる。

(5) 「シンナー遊び」への誘惑について

「あなたは、『シンナー遊び』に誘われたことがありますか？」との問いに対する回答の分布を表7に示した。

男子の1.4%、女子の1.5%の者が誘われたことが「ある」と答えており、女子では、学年が進むにつれて、誘われたことのある者の率が有意に（ $P < 0.01$ ）高くなる傾向が伺われた。

なお、この誘われ経験率の推移については、考察で論じる。

2. 有機溶剤乱用に対する捉え方

(1) 「シンナー遊び」への関心について

「『シンナー遊び』について、あなたの気持ちはどれに最も近いですか？」との問いに対する未経験者群での回答の分布を表8に示した。

表5 「シンナー遊び」を実際に見たことがありますか？

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	10480	(94.6)	10240	(95.0)	10485	(92.9)	31205	(94.1)
	ある	543	(4.9)	490	(4.5)	741	(6.6)	1774	(5.4)
	無回答	58	(.5)	53	(.5)	60	(.5)	171	(.5)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 51.277, df = 2, p = .000$)									
女性	ない	9996	(94.8)	10031	(93.8)	10359	(93.3)	30386	(93.9)
	ある	517	(4.9)	649	(6.1)	711	(6.4)	1877	(5.8)
	無回答	31	(.3)	18	(.2)	32	(.3)	81	(.3)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 24.245, df = 2, p = .000$)									
全体	ない	20491	(94.7)	20287	(94.4)	20861	(93.1)	61639	(94.0)
	ある	1062	(4.9)	1140	(5.3)	1455	(6.5)	3657	(5.6)
	無回答	92	(.4)	72	(.3)	92	(.4)	256	(.4)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 57.336, df = 2, p = .000$)									

男女ともに、回答の分布には学年間で有意差 ($P < 0.01$) が認められるが、「関心がない」を選択した者は、男女ともに3年生で最も多く、「好奇心」は2年生で頭打ちになる傾向が示唆された。この傾向は2002年調査²¹⁾でも認められている。

なお、表8は未経験者についてだけの分析であるが、有機溶剤未経験者の中には、本問で「(シンナー遊びの)経験がある」を選択した者があり、本調査の「正確さ」を見るために、あえてその結果を明らかにした。

(2) 「シンナー遊び」と法の遵守について

「『シンナー遊び』は法律で禁じられていますか、その『シンナー遊び』をすることをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を「シンナー遊び」の経験の有無を軸にして表9に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ($P < 0.01$) が認められ、未経験者群では男女共に約96%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだのに対して、経験者群では、男女共に「法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う」「法律を守る必要は全然ないと思う」と答えた者が男子で38%、女子で44%と乖離した。

(3) 「シンナー遊び」と法規制の必要性について

「法律で『シンナー遊び』を禁止しているのをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表10に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ($P < 0.01$) が認められ、非経験者群では、男女ともに91~92%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、「麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかなと思う」「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」と答えた者が相当数いた(男子で29%、女子で38%)。

(4) 「シンナー遊び」をしている者への見方 (その1)

「『シンナー遊び』をしている人について、どう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表11に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ($P < 0.01$) が認められ、非経験者群では男女共に約96~95%の者が「自分には無関係の人だと思う」を選んだのに対して、経験者群では「『シンナー遊び』をする気持ちが理解できる気がする」ないしは「親しみをを感じる」を選んだ者が相当数いた(男子で38.3%、女子で46.7%)。

表6 身近に「シンナー遊び」をしている人がいますか？

		1年		2年		3年		全体	
男性	いない	10727	(96.8)	10419	(96.6)	10821	(95.9)	31967	(96.4)
	いる	259	(2.3)	286	(2.7)	373	(3.3)	918	(2.8)
	無回答	95	(.9)	78	(.7)	92	(.8)	265	(.8)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 20.248, df = 2, p = .000$)									
女性	いない	10179	(96.5)	10286	(96.1)	10510	(94.7)	30975	(95.8)
	いる	302	(2.9)	368	(3.4)	542	(4.9)	1212	(3.7)
	無回答	63	(.6)	44	(.4)	50	(.5)	157	(.5)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 64.997, df = 2, p = .000$)									
全体	いない	20924	(96.7)	20721	(96.4)	21344	(95.3)	62989	(96.1)
	いる	561	(2.6)	655	(3.0)	919	(4.1)	2135	(3.3)
	無回答	160	(.7)	123	(.6)	145	(.6)	428	(.7)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 83.933, df = 2, p = .000$)									

(5) 「シンナ - 遊び」をしている者への見方
(その2)

「『シンナ - 遊び』をしている人と親しくなる事について、どう考えますか？」との問いに対する回答の分布を表12に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 (P<0.01) が認められた。非経験者群では「親しくなりたくない」を選んだ者が、男女共に70%台だったのに対して、経験者群では男女共に「すでに親しい」を選んだ者が20%台にのぼった。

この結果は、表11とあわせて、「シンナー遊び」をしている者に対する見方が、非経験者群、経験者群で乖離していることを示唆している。

(6) 「シンナー遊び」をする理由について

「『シンナー遊び』をしている人たちは、どうして『シンナー遊び』をするのだと思いますか？」との問いに対する回答の分布を表13に示した。

非経験者群では、男女ともに「本人に問題があるから」ないしは「家庭に問題があるから」が上位2つを占めたが、男子では本人に問題があるから」を選んだ者が最も多く、「女子では「家庭に問題があるから」を選んだ者が最も多かった。

一方、経験者群でも、男女ともに、「本人に問題があるから」「家庭に問題があるから」が上位2

つを占めたが、男子では「社会に問題があるから」が第3位で、女子では「学校に問題があるから」が第3位であった。

女子では、有機溶剤乱用の経験に関わらず、「家庭に問題があるから」を重要視する傾向が男子よりは強い傾向が伺われた。

3. 有機溶剤乱用による医学的害について

(1) 「シンナー」吸引による急性中毒死について

「『シンナー遊び』で死亡すること（急性中毒死）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表14に示した。

従来、この質問には、男女ともに、経験者群の方が「知っている」を選択した者の割合が高かったが⁽¹⁰⁾⁽¹³⁾⁽²⁰⁾、2002年調査⁽²¹⁾で初めて、男子で「知っている」を選択した者が非経験者群の方が多いという結果となったが、今回の調査では、男女ともに、「知っている」を選択した者が非経験者群の方が多いという結果となった（しかし、有意差はない）ことは特筆に値する。

これは薬物乱用防止教育の「成果」と推定できるが、未だ有意差はなく、同教育の一層の推進が望まれるところである。

表7 「シンナー遊び」に誘われた経験

		1年		2年		3年		全体	
男性	ない	10475	(94.5)	10209	(94.7)	10605	(94.0)	31289	(94.4)
	ある	135	(1.2)	120	(1.1)	181	(1.6)	436	(1.3)
	無回答	471	(4.3)	454	(4.2)	500	(4.4)	1425	(4.3)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 11.599, df = 2, p = .003$)									
女性	ない	9941	(94.3)	10028	(93.7)	10327	(93.0)	30296	(93.7)
	ある	121	(1.1)	148	(1.4)	201	(1.8)	470	(1.5)
	無回答	482	(4.6)	522	(4.9)	574	(5.2)	1578	(4.9)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 17.621, df = 2, p = .000$)									
全体	ない	20435	(94.4)	20251	(94.2)	20948	(93.5)	61634	(94.0)
	ある	256	(1.2)	270	(1.3)	384	(1.7)	910	(1.4)
	無回答	954	(4.4)	978	(4.5)	1076	(4.8)	3008	(4.6)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 27.338, df = 2, p = .000$)									

(2) 「シンナ - 」吸引の繰り返しによる歯の腐食について

『シンナー遊び』を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすことを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表15に示した。

従来、この質問に対しては、男女ともに、経験者群の方が「知っている」を選択した者の割合が高かったが⁽¹⁰⁾⁽¹³⁾⁽²⁰⁾、2002年調査⁽²¹⁾で初めて、男子では「知っている」を選択した者が非経験者群の方が多かったが、今回は再び元に戻ってしまった(ただし有意差はない)結果であった。

薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれるところである。

(3) 「シンナ - 」吸引の繰り返しによる多発神経炎について

『シンナー遊び』を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなかつたり、歩けなくなる(多発神経炎)があるのを知っています

か？」との問いに対する回答の分布を表16に示した。

「知っている」を選んだ生徒の割合は、男子では1996年調査⁽¹⁰⁾、1998年調査⁽¹³⁾、2000年調査⁽²⁰⁾では、経験者群の方が高かったが、2002年調査⁽²¹⁾では非経験者群の方が割合が高かった。女子では、1996年調査、2000年調査では、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者の割合が高く、1998年調査では、経験者群の方が高かったが、2002年調査⁽²¹⁾では経験者群の方でわずかに高かった。

今回は、初めて、男女ともに非経験者の方が「知っている」を選んだ生徒の割合の方が多いという結果となった。ただし、統計学的有意差($p < 0.05$)はなく、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

(4) 「シンナー」吸引の繰り返しによる有機溶剤精神病について

『シンナー遊び』を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり(幻視)、実際には何も聞こえない

表8 「シンナー遊び」についての気持ち(未経験者についてのみ)

		1年		2年		3年		全体	
男性	関心がない	10149	(93.5)	9787	(92.5)	10390	(94.3)	30326	(93.4)
	見てみたい	543	(5.0)	612	(5.8)	473	(4.3)	1628	(5.0)
	試してみたい	59	(.5)	90	(.9)	79	(.7)	228	(.7)
	経験がある	2	(.0)	6	(.1)	10	(.1)	18	(.1)
	無回答	104	(1.0)	85	(.8)	65	(.6)	254	(.8)
	合計	10857	(100)	10580	(100)	11017	(100)	32454	(100)
($\chi^2 = 38.137, df = 6, p = .000$)									
女性	関心がない	9525	(91.8)	9517	(90.3)	10125	(92.5)	29167	(91.5)
	見てみたい	729	(7.0)	874	(8.3)	663	(6.1)	2266	(7.1)
	試してみたい	72	(.7)	87	(.8)	101	(.9)	260	(.8)
	経験がある	0	(.0)	1	(.0)	2	(.0)	3	(.0)
	無回答	48	(.5)	60	(.6)	58	(.5)	166	(.5)
	合計	10374	(100)	10539	(100)	10949	(100)	31862	(100)
($\chi^2 = 46.171, df = 6, p = .000$)									
全体	関心がない	19689	(92.7)	19318	(91.4)	20529	(93.4)	59536	(92.5)
	見てみたい	1273	(6.0)	1487	(7.0)	1137	(5.2)	3897	(6.1)
	試してみたい	131	(.6)	178	(.8)	180	(.8)	489	(.8)
	経験がある	2	(.0)	7	(.0)	12	(.1)	21	(.0)
	無回答	154	(.7)	146	(.7)	123	(.6)	423	(.7)
	合計	21249	(100)	21136	(100)	21981	(100)	64366	(100)
($\chi^2 = 82.050, df = 6, p = .000$)									

のに、声が聞こえたり（幻聴）、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思い込んだり（妄想）する状態（精神病状態）になることがあるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表17に示した。

1996年調査¹⁰⁾では、男女ともに経験者群の方が「知っている」を選んだ者が多く、1998年調査¹³⁾ではその割合は非経験者群の方が多かったが、男子では有意差がなく、2000年調査²⁰⁾では男女共に経験者群の方が割合が高いという結果であった。

2002年調査²¹⁾では、男女ともに「知っている」を選んだ者は非経験者群で多く、男子では有意差

も認められた。今回も、男女ともに「知っている」を選んだ者は非経験者群で多かったが、男子では有意差は認められず、薬物乱用防止教育のなお一層の推進が望まれる結果であった。

(5) 「シンナー」吸引の繰り返しによる無動機症候群について

『『シンナー遊び』を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事についても長続きしなくなること（無動機症候群）を知っていますか？」との問

表9 「シンナー遊び」についてどう思いますか？（法の遵守）

	生涯シンナー経験			全体	
	経験なし	経験あり	無回答		
男性 法律で禁止されているか	31269 (96.3)	259 (61.7)	136 (49.3)	31664	(95.5)
らすべきではない					
法律で禁止されてはいる	596 (1.8)	68 (16.2)	9 (3.3)	673	(2.0)
が少々ならかまわない					
法律で禁止されてはいる	498 (1.5)	91 (21.7)	7 (2.5)	596	(1.8)
が守る必要はない					
無回答	91 (.3)	2 (.5)	124 (44.9)	217	(.7)
合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150	(100)
				($\chi^2 = 1415.628$, $df = 2$, $p = .000$)	
女性 法律で禁止されているか	30634 (96.1)	173 (54.6)	98 (59.4)	30905	(95.6)
らすべきではない					
法律で禁止されてはいる	814 (2.6)	65 (20.5)	8 (4.8)	887	(2.7)
が少々ならかまわない					
法律で禁止されてはいる	323 (1.0)	75 (23.7)	3 (1.8)	401	(1.2)
が守る必要はない					
無回答	91 (.3)	4 (1.3)	56 (33.9)	151	(.5)
合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344	(100)
				($\chi^2 = 1745.024$, $df = 2$, $p = .000$)	
全体 法律で禁止されているか	61945 (96.2)	435 (58.5)	234 (52.9)	62614	(95.5)
らすべきではない					
法律で禁止されてはいる	1414 (2.2)	134 (18.0)	17 (3.8)	1565	(2.4)
が少々ならかまわない					
法律で禁止されてはいる	824 (1.3)	169 (22.7)	11 (2.5)	1004	(1.5)
が守る必要はない					
無回答	183 (.3)	6 (.8)	180 (40.7)	369	(.6)
合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552	(100)
				($\chi^2 = 3114.837$, $df = 2$, $p = .000$)	

表10 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのをどう思いますか？（法規制の必要性）

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
		り			
男性	当然だと思う	29757 (91.7)	235 (56.0)	131 (47.5)	30123 (90.9)
	仕方がないことだと思う	1496 (4.6)	62 (14.8)	6 (2.2)	1564 (4.7)
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	146 (.4)	35 (8.3)	4 (1.4)	185 (.6)
	法律で決める必要はなく個人の自由	990 (3.1)	86 (20.5)	9 (3.3)	1085 (3.3)
	無回答	65 (.2)	2 (.5)	126 (45.7)	193 (.6)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
		($\chi^2 = 1003.617$, df = 3, p = .000)			
女性	当然だと思う	29056 (91.2)	149 (47.0)	93 (56.4)	29298 (90.6)
	仕方がないことだと思う	1752 (5.5)	43 (13.6)	10 (6.1)	1805 (5.6)
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	179 (.6)	44 (13.9)	1 (.6)	224 (.7)
	法律で決める必要はなく個人の自由	789 (2.5)	78 (24.6)	5 (3.0)	872 (2.7)
	無回答	86 (.3)	3 (.9)	56 (33.9)	145 (.4)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
		($\chi^2 = 1487.908$, df = 3, p = .000)			
全体	当然だと思う	58855 (91.4)	387 (52.0)	224 (50.7)	59466 (90.7)
	仕方がないことだと思う	3250 (5.0)	105 (14.1)	16 (3.6)	3371 (5.1)
	麻薬・覚せい剤と違ってシンナーく らい禁止しなくてもいいのでは	326 (.5)	80 (10.8)	5 (1.1)	411 (.6)
	法律で決める必要はなく個人の自由	1783 (2.8)	167 (22.4)	15 (3.4)	1965 (3.0)
	無回答	152 (.2)	5 (.7)	182 (41.2)	339 (.5)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
		($\chi^2 = 2442.377$, df = 3, p = .000)			

表11 「シンナー遊び」をしている人についてどう思いますか？

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
男性	自分には無関係の人	31053 (95.7)	254 (60.5)	140 (50.7)	31447 (94.9)
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	1052 (3.2)	82 (19.5)	8 (2.9)	1142 (3.4)
	親しみを感じる	137 (.4)	79 (18.8)	2 (.7)	218 (.7)
	無回答	212 (.7)	5 (1.2)	126 (45.7)	343 (1.0)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
		($\chi^2 = 2519.455$, df = 2, p = .000)			($\chi^2 = 2534.361$, df = 2, p = .000)
女性	自分には無関係の人	30132 (94.6)	163 (51.4)	95 (57.6)	30390 (94.0)
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	1469 (4.6)	90 (28.4)	14 (8.5)	1573 (4.9)
	親しみを感じる	67 (.2)	58 (18.3)	1 (.6)	126 (.4)
	無回答	194 (.6)	6 (1.9)	55 (33.3)	255 (.8)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
		($\chi^2 = 3110.946$, df = 2, p = .000)			($\chi^2 = 2870.059$, df = 2, p = .000)
全体	自分には無関係の人	61228 (95.1)	420 (56.5)	236 (53.4)	61884 (94.4)
	シンナー - 遊びをする気持ちが 理解できる気がする	2525 (3.9)	173 (23.3)	22 (5.0)	2720 (4.1)
	親しみを感じる	204 (.3)	140 (18.8)	3 (.7)	347 (.5)
	無回答	409 (.6)	11 (1.5)	181 (41.0)	601 (.9)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
		($\chi^2 = 5590.286$, df = 2, p = .000)			($\chi^2 = 5342.244$, df = 2, p = .000)

表12 「シンナー遊び」をしている人と親しくなることについてどう思いますか？

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
男性	親しくなりたくない	25163 (77.5)	185 (44.0)	105 (38.0)	25453 (76.8)
	シンナー遊びだけで決めたくない	6956 (21.4)	143 (34.0)	39 (14.1)	7138 (21.5)
	すでに親しい	171 (.5)	87 (20.7)	2 (.7)	260 (.8)
	無回答	164 (.5)	5 (1.2)	130 (47.1)	299 (.9)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 2259.064, df = 2, p = .000$)					
女性	親しくなりたくない	22615 (71.0)	88 (27.8)	70 (42.4)	22773 (70.4)
	シンナー遊びだけで決めたくない	8947 (28.1)	137 (43.2)	36 (21.8)	9120 (28.2)
	すでに親しい	155 (.5)	88 (27.8)	3 (1.8)	246 (.8)
	無回答	145 (.5)	4 (1.3)	56 (33.9)	205 (.6)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 3226.022, df = 2, p = .000$)					
全体	親しくなりたくない	47810 (74.3)	275 (37.0)	175 (39.6)	48260 (73.6)
	シンナー遊びだけで決めたくない	15919 (24.7)	282 (37.9)	76 (17.2)	16277 (24.8)
	すでに親しい	326 (.5)	178 (23.9)	5 (1.1)	509 (.8)
	無回答	311 (.5)	9 (1.2)	186 (42.1)	506 (.8)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 5439.570, df = 2, p = .000$)					

表13 どうして「シンナー遊び」をするのだと思いますか？（複数回答）

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	本人に問題	22195 (68.4)	230 (54.8)	146 (52.9)	22571 (68.1)	($\chi^2 = 35.512, df = 1, p = .000$)
	家庭に問題	16710 (51.5)	204 (48.6)	124 (44.9)	17038 (51.4)	($\chi^2 = 35.512, df = 1, p = .000$)
	学校に問題	9091 (28.0)	149 (35.5)	68 (24.6)	9308 (28.1)	($\chi^2 = 11.432, df = 1, p = .001$)
	社会に問題	11073 (34.1)	178 (42.4)	96 (34.8)	11347 (34.2)	($\chi^2 = 12.573, df = 1, p = .000$)
	無回答	465 (1.4)	15 (3.6)	37 (13.4)	517 (1.6)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
女性	本人に問題	19257 (60.4)	152 (47.9)	79 (47.9)	19488 (60.3)	($\chi^2 = 20.474, df = 1, p = .000$)
	家庭に問題	21806 (68.4)	197 (62.1)	98 (59.4)	22101 (68.3)	($\chi^2 = 5.762, df = 1, p = .016$)
	学校に問題	13161 (41.3)	142 (44.8)	57 (34.5)	13360 (41.3)	($\chi^2 = 1.572, df = 1, p = .210$)
	社会に問題	11532 (36.2)	125 (39.4)	40 (24.2)	11697 (36.2)	($\chi^2 = 1.422, df = 1, p = .233$)
	無回答	435 (1.4)	6 (1.9)	22 (13.3)	463 (1.4)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
全体	本人に問題	41481 (64.4)	386 (51.9)	225 (50.9)	42092 (64.2)	($\chi^2 = 50.603, df = 1, p = .000$)
	家庭に問題	38547 (59.9)	406 (54.6)	222 (50.2)	39175 (59.8)	($\chi^2 = 8.662, df = 1, p = .003$)
	学校に問題	22270 (34.6)	295 (39.7)	125 (28.3)	22690 (34.6)	($\chi^2 = 8.282, df = 1, p = .004$)
	社会に問題	22627 (35.2)	308 (41.4)	137 (31.0)	23072 (35.2)	($\chi^2 = 12.561, df = 1, p = .000$)
	無回答	904 (1.4)	21 (2.8)	59 (13.3)	984 (1.5)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	

いに対する回答の分布を表18に示した。

男女共に、有意差こそ認められなかったが、「知っている」を選んだ者は経験者群の方で多かった。

この無動機症候群は有機溶剤乱用による害の中でも、特に重篤なものと考えられるが、これまでに述べた害の中でも、この無動機症候群について

の知識普及率が最も低く、ややもすれば身体への害知識の普及に傾きがちな薬物乱用防止教育の今後の最大の課題であろうと考えられることは、従来通りである。

(6)有機溶剤精神病後のフラッシュバック現象について

表14 シンナー遊びによる急性中毒死を知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	20543 (63.3)	261 (62.1)	99 (35.9)	20903 (63.1)	
	知らない	11885 (36.6)	157 (37.4)	61 (22.1)	12103 (36.5)	
	無回答	26 (.1)	2 (.5)	116 (42.0)	144 (.4)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = .147, df = 1, p = .701$)						
女性	知っている	21200 (66.5)	209 (65.9)	74 (44.8)	21483 (66.4)	
	知らない	10644 (33.4)	106 (33.4)	41 (24.8)	10791 (33.4)	
	無回答	18 (.1)	2 (.6)	50 (30.3)	70 (.2)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = .007, df = 1, p = .933$)						
全体	知っている	41776 (64.9)	476 (64.0)	173 (39.1)	42425 (64.7)	
	知らない	22546 (35.0)	264 (35.5)	103 (23.3)	22913 (35.0)	
	無回答	44 (.1)	4 (.5)	166 (37.6)	214 (.3)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = .125, df = 1, p = .724$)						

表15 「シンナー遊び」を繰り返すと歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	22449 (69.2)	291 (69.3)	115 (41.7)	22855 (68.9)	
	知らない	9978 (30.7)	128 (30.5)	47 (17.0)	10153 (30.6)	
	無回答	27 (.1)	1 (.2)	114 (41.3)	142 (.4)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = .010, df = 1, p = .922$)						
女性	知っている	22151 (69.5)	231 (72.9)	70 (42.4)	22452 (69.4)	
	知らない	9691 (30.4)	85 (26.8)	46 (27.9)	9822 (30.4)	
	無回答	20 (.1)	1 (.3)	49 (29.7)	70 (.2)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 1.849, df = 1, p = .174$)						
全体	知っている	44633 (69.3)	529 (71.1)	185 (41.9)	45347 (69.2)	
	知らない	19686 (30.6)	213 (28.6)	94 (21.3)	19993 (30.5)	
	無回答	47 (.1)	2 (.3)	163 (36.9)	212 (.3)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 1.248, df = 1, p = .264$)						

「『シンナー遊び』の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再出現すること（フラッシュバック現象）があるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表19に示した。

これまでの3回の調査¹⁰⁾¹³⁾²⁰⁾では、毎回、男女ともに経験者群の方が「知っている」と答えた者の割合が有意差を持って高かったが、2002年調査²¹⁾では、「知っている」と答えた者の割合は、相変わらず経験者群の方で高いことはそれまでと同じであったが、初めて男子で有意差が認められなかった。今回の結果も2002年調査²¹⁾と同じであり、

表16 「シンナー遊び」を繰り返すと多発神経炎になるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	19298 (59.5)	248 (59.0)	134 (48.6)	19680 (59.4)	
	知らない	12987 (40.0)	163 (38.8)	118 (42.8)	13268 (40.0)	
	無回答	169 (.5)	9 (2.1)	24 (8.7)	202 (.6)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = .054, df = 1, p = .816$)
女性	知っている	20647 (64.8)	201 (63.4)	80 (48.5)	20928 (64.7)	
	知らない	11090 (34.8)	114 (36.0)	68 (41.2)	11272 (34.9)	
	無回答	125 (.4)	2 (.6)	17 (10.3)	144 (.4)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = .213, df = 1, p = .644$)
全体	知っている	39974 (62.1)	456 (61.3)	214 (48.4)	40644 (62.0)	
	知らない	24095 (37.4)	277 (37.2)	187 (42.3)	24559 (37.5)	
	無回答	297 (.5)	11 (1.5)	41 (9.3)	349 (.5)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = .010, df = 1, p = .919$)

表17 「シンナー遊び」を繰り返すと精神病状態になるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	25942 (79.9)	319 (76.0)	178 (64.5)	26439 (79.8)	
	知らない	6260 (19.3)	94 (22.4)	74 (26.8)	6428 (19.4)	
	無回答	252 (.8)	7 (1.7)	24 (8.7)	283 (.9)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = 2.866, df = 1, p = .090$)
女性	知っている	26828 (84.2)	244 (77.0)	104 (63.0)	27176 (84.0)	
	知らない	4857 (15.2)	69 (21.8)	45 (27.3)	4971 (15.4)	
	無回答	177 (.6)	4 (1.3)	16 (9.7)	197 (.6)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = 10.732, df = 1, p = .001$)
全体	知っている	52806 (82.0)	570 (76.6)	282 (63.8)	53658 (81.9)	
	知らない	11127 (17.3)	163 (21.9)	120 (27.1)	11410 (17.4)	
	無回答	433 (.7)	11 (1.5)	40 (9.0)	484 (.7)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = 11.747, df = 1, p = .001$)

いっそうの薬物乱用防止教育の推進が求められる結果であった。

4. 有機溶剤乱用と日常生活の規則性について

(1)起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の分布を表20に示した。

男女ともに、非経験者群では80%台の者が一定しているを選んだのに対して、経験者群では、63～57%であった。男女共に、経験者群の起床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ($p<0.01$) に乱れていた。

(2)就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の分布を表21に示した。

一定しているを選んだ者は、非経験者群では52～50%であったのに対して、経験者群では、約35～34%と低かった。

男女共に、経験者群の就床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ($p<0.01$) に乱れていた。

(3)朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表22に示した。

非経験者群では男女ともに80%台の者が「ほとんど毎日(食べている)」を選んだのに対して、経験者群では、「ほとんど毎日(食べている)」を選んだ者は66～57%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意 ($p<0.01$) に低いと解釈できる。

5. 有機溶剤乱用と学校生活について

(1)学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれですか？」との問いに対する回答を表23に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ($p<0.01$) が認められ、「全く楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では、4～3%であったが、経験者群では男子で17%、女子では21%であった。

経験者群で「楽しくない」傾向の者が有意に多いと解釈できる。

(2)クラブ活動について

表18「シンナー遊び」を繰り返すと無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	17305 (53.3)	236 (56.2)	121 (43.8)	17662 (53.3)	
	知らない	14802 (45.6)	175 (41.7)	128 (46.4)	15105 (45.6)	
	無回答	347 (1.1)	9 (2.1)	27 (9.8)	383 (1.2)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = 2.027, df = 1, p = .154$)
女性	知っている	18437 (57.9)	193 (60.9)	76 (46.1)	18706 (57.8)	
	知らない	13169 (41.3)	123 (38.8)	73 (44.2)	13365 (41.3)	
	無回答	256 (.8)	1 (.3)	16 (9.7)	273 (.8)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = .968, df = 1, p = .325$)
全体	知っている	35771 (55.6)	436 (58.6)	197 (44.6)	36404 (55.5)	
	知らない	27989 (43.5)	298 (40.1)	202 (45.7)	28489 (43.5)	
	無回答	606 (.9)	10 (1.3)	43 (9.7)	659 (1.0)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = 3.205, df = 1, p = .073$)

「クラブ活動（部活）に参加していますか？」との問いに対する回答の分布を表24に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群との間には、回答の分布に有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は、男女ともに19%であったのに対して、経験者群では、男子で33%、女子で38%の者が「参加していない」を選んだ。

経験者群の方で、クラブ活動（部活）に参加していない者の割合が有意に高いと解釈できる。

6. 有機溶剤乱用と家庭生活について

(1) 家族との夕食頻度

夕食には、「一家団欒」としての意味合いが強いと考え、一週間における家族での夕食頻度を調査した。

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？」との問いに対する回答の分布を表25に、また「母親と週何回くらい夕食を食べますか？」「父親と週何回くらい夕食を食べますか？」の問いに対する回答の分布を、それぞれ表26、表27に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、かつ、親との夕食頻度は

常に「シンナー遊び」経験者群で低い傾向が示唆された。

また、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、これは論理の矛盾であるが、この矛盾は、この種の調査で毎回認められていることである⁵⁾¹⁰⁾¹³⁾¹⁴⁾²⁰⁾²¹⁾。我が国の社会環境の中で、父親が夕食時に帰宅できない事情がかなり定着しており、家族全員での夕食と言ったときには、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意（ $p < 0.01$ ）に少ないと解釈できる。

(2) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？」との問いに対する回答の分布を表28に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに有意差（ $p < 0.01$ ）が認められた。非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、男女ともに16～15%であったのに対して、経験者群では男女ともに約28～30%であった。

表19 「シンナー遊び」の結果、フラッシュバックが起こることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	知っている	19207 (59.2)	266 (63.3)	145 (52.5)	19618 (59.2)	
	知らない	12953 (39.9)	147 (35.0)	103 (37.3)	13203 (39.8)	
	無回答	294 (.9)	7 (1.7)	28 (10.1)	329 (1.0)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 3.720, df = 1, p = .054$)						
女性	知っている	19589 (61.5)	218 (68.8)	79 (47.9)	19886 (61.5)	
	知らない	12055 (37.8)	94 (29.7)	69 (41.8)	12218 (37.8)	
	無回答	218 (.7)	5 (1.6)	17 (10.3)	240 (.7)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 8.323, df = 1, p = .004$)						
全体	知っている	38824 (60.3)	491 (66.0)	224 (50.7)	39539 (60.3)	
	知らない	25026 (38.9)	241 (32.4)	173 (39.1)	25440 (38.8)	
	無回答	516 (.8)	12 (1.6)	45 (10.2)	573 (.9)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 11.951, df = 1, p = .001$)						

経験者群で、大人不在で過ごす時間が有意に長い傾向があることが示唆された。

(3)親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思

いますか？」との問いに対する回答の分布を表29に示した。

男女ともに、回答の分布には有意差 ($p < 0.01$) が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で44%、女子で33%であったのに対して、経験者群では男子%、女子

表20 あなたの起床時間はほぼ一定していますか？

		生涯シナナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	はい	26259 (80.9)	266 (63.3)	205 (74.3)	26730 (80.6)	
	いいえ	6102 (18.8)	152 (36.2)	68 (24.6)	6322 (19.1)	
	無回答	93 (.3)	2 (.5)	3 (1.1)	98 (.3)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 81.928, df = 1, p = .000$)						
女性	はい	26462 (83.1)	181 (57.1)	123 (74.5)	26766 (82.8)	
	いいえ	5323 (16.7)	136 (42.9)	39 (23.6)	5498 (17.0)	
	無回答	77 (.2)	0 (.0)	3 (1.8)	80 (.2)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 152.138, df = 1, p = .000$)						
全体	はい	52754 (82.0)	448 (60.2)	328 (74.2)	53530 (81.7)	
	いいえ	11434 (17.8)	294 (39.5)	108 (24.4)	11836 (18.1)	
	無回答	178 (.3)	2 (.3)	6 (1.4)	186 (.3)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 235.742, df = 1, p = .000$)						

表21 あなたの就寝時間はほぼ一定していますか？

		生涯シナナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	はい	16922 (52.1)	147 (35.0)	132 (47.8)	17201 (51.9)	
	いいえ	15360 (47.3)	269 (64.0)	143 (51.8)	15772 (47.6)	
	無回答	172 (.5)	4 (1.0)	1 (.4)	177 (.5)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 48.034, df = 1, p = .000$)						
女性	はい	15856 (49.8)	109 (34.4)	67 (40.6)	16032 (49.6)	
	いいえ	15853 (49.8)	206 (65.0)	96 (58.2)	16155 (49.9)	
	無回答	153 (.5)	2 (.6)	2 (1.2)	157 (.5)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 29.594, df = 1, p = .000$)						
全体	はい	32800 (51.0)	256 (34.4)	199 (45.0)	33255 (50.7)	
	いいえ	31232 (48.5)	482 (64.8)	240 (54.3)	31954 (48.7)	
	無回答	334 (.5)	6 (.8)	3 (.7)	343 (.5)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 79.834, df = 1, p = .000$)						

表22 毎朝、朝食を食べていますか？

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
男性	ほとんど毎日食べている	27190 (83.8)	278 (66.2)	211 (76.4)	27679 (83.5)
	時々食べる	3280 (10.1)	67 (16.0)	31 (11.2)	3378 (10.2)
	ほとんど食べない	1905 (5.9)	73 (17.4)	30 (10.9)	2008 (6.1)
	無回答	79 (.2)	2 (.5)	4 (1.4)	85 (.3)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 120.854, df = 2, p = .000$)					
女性	ほとんど毎日食べている	27062 (84.9)	180 (56.8)	124 (75.2)	27366 (84.6)
	時々食べる	3111 (9.8)	57 (18.0)	26 (15.8)	3194 (9.9)
	ほとんど食べない	1617 (5.1)	78 (24.6)	14 (8.5)	1709 (5.3)
	無回答	72 (.2)	2 (.6)	1 (.6)	75 (.2)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 279.317, df = 2, p = .000$)					
全体	ほとんど毎日食べている	54285 (84.3)	461 (62.0)	335 (75.8)	55081 (84.0)
	時々食べる	6399 (9.9)	125 (16.8)	58 (13.1)	6582 (10.0)
	ほとんど食べない	3526 (5.5)	154 (20.7)	44 (10.0)	3724 (5.7)
	無回答	156 (.2)	4 (.5)	5 (1.1)	165 (.3)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 380.911, df = 2, p = .000$)					

表23 あなたにとって、学校生活は次のどれですか？

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
男性	とても楽しい	11898 (36.7)	131 (31.2)	92 (33.3)	12121 (36.6)
	どちらかといえば楽しい	15634 (48.2)	162 (38.6)	124 (44.9)	15920 (48.0)
	あまり楽しくない	3698 (11.4)	53 (12.6)	39 (14.1)	3790 (11.4)
	まったく楽しくない	1151 (3.5)	72 (17.1)	20 (7.2)	1243 (3.7)
	無回答	73 (.2)	2 (.5)	1 (.4)	76 (.2)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 218.455, df = 3, p = .000$)					
女性	とても楽しい	13476 (42.3)	81 (25.6)	60 (36.4)	13617 (42.1)
	どちらかといえば楽しい	13806 (43.3)	123 (38.8)	63 (38.2)	13992 (43.3)
	あまり楽しくない	3641 (11.4)	46 (14.5)	27 (16.4)	3714 (11.5)
	まったく楽しくない	870 (2.7)	66 (20.8)	14 (8.5)	950 (2.9)
	無回答	69 (.2)	1 (.3)	1 (.6)	71 (.2)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 378.461, df = 3, p = .000$)					
全体	とても楽しい	25391 (39.4)	215 (28.9)	152 (34.4)	25758 (39.3)
	どちらかといえば楽しい	29457 (45.8)	286 (38.4)	188 (42.5)	29931 (45.7)
	あまり楽しくない	7345 (11.4)	99 (13.3)	66 (14.9)	7510 (11.5)
	まったく楽しくない	2024 (3.1)	141 (19.0)	34 (7.7)	2199 (3.4)
	無回答	149 (.2)	3 (.4)	2 (.5)	154 (.2)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 585.428, df = 3, p = .000$)					

で45%であった。

経験者群の方で、親との相談が少ない傾向にあることが示唆された。

しかし、それ以前に、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、男女ともに、そもそも、「よく相談する方である」を選んだ者の少なさが目立ったのは従来通りである。

7. 有機溶剤乱用と友人関係について

(1) 遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表30に示した。

男女ともに、経験者群と非経験者群との間には有意差 ($p < 0.01$) が認められた。男女ともに、経験者群の方で、「親しく遊べる友人がいない」を選んだ生徒が多いのは、これまでの同種の調査結果⁵⁾¹⁰⁾¹³⁾¹⁴⁾²⁰⁾²¹⁾と同じであった。

(2) 相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表31に示した。

男女ともに、経験者群・非経験者群間で有意差 ($p < 0.01$) が認められ、「(相談できる友人は)いない」を選んだ者は、非経験者群の男子で19%、女子で10%であったのに対して、経験者群では男子で32%、女子で27%と、違いが認められた。

経験者群の方で、相談事のできる友人が「いない」傾向がより強いことが示唆された。

2. 喫煙について

1. 喫煙の広がりについて

(1) 喫煙の生涯経験率について

喫煙の生涯経験率(これまでに1回でも喫煙したことのある者の率)についての回答を表32に示した。

生涯経験率と学年の間には、男女ともに有意差

表24 クラブ活動(部活)には参加していますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	積極的に参加している	22054 (68.0)	212 (50.5)	178 (64.5)	22444 (67.7)	
	消極的に参加している	3949 (12.2)	67 (16.0)	39 (14.1)	4055 (12.2)	
	参加していない	6151 (19.0)	138 (32.9)	55 (19.9)	6344 (19.1)	
	無回答	300 (.9)	3 (.7)	4 (1.4)	307 (.9)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 65.327, df = 2, p = .000$)						
女性	積極的に参加している	21383 (67.1)	138 (43.5)	100 (60.6)	21621 (66.8)	
	消極的に参加している	3813 (12.0)	53 (16.7)	20 (12.1)	3886 (12.0)	
	参加していない	6297 (19.8)	121 (38.2)	40 (24.2)	6458 (20.0)	
	無回答	369 (1.2)	5 (1.6)	5 (3.0)	379 (1.2)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 85.662, df = 2, p = .000$)						
全体	積極的に参加している	43461 (67.5)	353 (47.4)	278 (62.9)	44092 (67.3)	
	消極的に参加している	7771 (12.1)	121 (16.3)	60 (13.6)	7952 (12.1)	
	参加していない	12461 (19.4)	262 (35.2)	95 (21.5)	12818 (19.6)	
	無回答	673 (1.0)	8 (1.1)	9 (2.0)	690 (1.1)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 149.371, df = 2, p = .000$)						

が認められ(P<0.01) 学年が進むにしたがって、生涯経験率が増加する傾向が認められた。

男子では14.8%(1年生9.9%、2年生14.5%、3年生19.8%)であり、女子では11.1%(1年生7.4%、2年生11.5%、3年生14.2%)であった。全体で13.0%(1年生で8.7%、2年生で13.0%、3年生で17.1%)であった。

(2)喫煙の1年経験率について

1年喫煙率(この1年間に1回でも喫煙したことのある者の率)についての回答を表33に示した。

生涯経験率と同様に、1年経験率(1年喫煙率)と学年との間には、男女ともに有意差が認められ

(P<0.01) 学年が進むにしたがって、経験率が增加する傾向が認められた。

男子では6.2%(1年生3.5%、2年生5.9%、3年生9.3%)であり、女子では4.9%(1年生2.7%、2年生4.9%、3年生7.0%)であった。全体では5.6%(1年生で3.1%、2年生で5.4%、3年生で8.23%)であった。

2. 喫煙に対する捉え方

(1)喫煙と法の遵守について

「未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか?」との問いに対する回答の分布を表34に示した。

表25 夕食を週何回くらい家族全員で食べますか?

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	ほとんど毎日	9679 (29.8)	99 (23.6)	89 (32.2)	9867 (29.8)	
	5 - 6回	3623 (11.2)	31 (7.4)	22 (8.0)	3676 (11.1)	
	4回前後	3463 (10.7)	43 (10.2)	23 (8.3)	3529 (10.6)	
	3回前後	3198 (9.9)	34 (8.1)	18 (6.5)	3250 (9.8)	
	2回前後	6045 (18.6)	71 (16.9)	51 (18.5)	6167 (18.6)	
	ほとんど食べない	6244 (19.2)	138 (32.9)	68 (24.6)	6450 (19.5)	
	無回答	202 (.6)	4 (1.0)	5 (1.8)	211 (.6)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = 52.596, df = 5, p = .000$)
女性	ほとんど毎日	9793 (30.7)	71 (22.4)	53 (32.1)	9917 (30.7)	
	5 - 6回	3441 (10.8)	30 (9.5)	21 (12.7)	3492 (10.8)	
	4回前後	3242 (10.2)	28 (8.8)	15 (9.1)	3285 (10.2)	
	3回前後	2933 (9.2)	25 (7.9)	12 (7.3)	2970 (9.2)	
	2回前後	6248 (19.6)	47 (14.8)	26 (15.8)	6321 (19.5)	
	ほとんど食べない	5985 (18.8)	114 (36.0)	37 (22.4)	6136 (19.0)	
	無回答	220 (.7)	2 (.6)	1 (.6)	223 (.7)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = 61.291, df = 5, p = .000$)
全体	ほとんど毎日	19481 (30.3)	170 (22.8)	142 (32.1)	19793 (30.2)	
	5 - 6回	7068 (11.0)	61 (8.2)	43 (9.7)	7172 (10.9)	
	4回前後	6711 (10.4)	71 (9.5)	38 (8.6)	6820 (10.4)	
	3回前後	6136 (9.5)	60 (8.1)	30 (6.8)	6226 (9.5)	
	2回前後	12299 (19.1)	121 (16.3)	77 (17.4)	12497 (19.1)	
	ほとんど食べない	12246 (19.0)	255 (34.3)	106 (24.0)	12607 (19.2)	
	無回答	425 (.7)	6 (.8)	6 (1.4)	437 (.7)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = 113.175, df = 5, p = .000$)

回答の分布には、男女共に有意差 ($p < 0.01$) が認められ、未経験者群では、男女共に90%弱の者が「法律で禁じられているから、吸うべきでない」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は男女共に57~50%しかおらず、逆に「法律で禁じられてはいるが、全然かまわない」を選んだ者が男女ともに13%いた(未経験群では、それぞれ3%、2%)。

(2)喫煙と法規制の必要性について

「未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？」に対する回答の分布を表35に示した。

回答の分布には、男女共に有意差が認められ($p < 0.01$) 未経験者群では男女共に75~74%の者が「当然だと思う」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は、男子で38%、女子で31%であり、18~21%の者が「そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う」を選んでいった。

表26 母親と週何回くらい夕食を食べますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	18664	(57.5)	185	(44.0)	173	(62.7)	19022	(57.4)
	5 - 6回	4227	(13.0)	46	(11.0)	13	(4.7)	4286	(12.9)
	4回前後	2887	(8.9)	36	(8.6)	24	(8.7)	2947	(8.9)
	3回前後	1687	(5.2)	29	(6.9)	10	(3.6)	1726	(5.2)
	2回前後	1647	(5.1)	22	(5.2)	15	(5.4)	1684	(5.1)
	ほとんど食べない	2032	(6.3)	48	(11.4)	22	(8.0)	2102	(6.3)
	母親がいない	750	(2.3)	44	(10.5)	13	(4.7)	807	(2.4)
	無回答	560	(1.7)	10	(2.4)	6	(2.2)	576	(1.7)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
	($\chi^2 = 149.767, df = 6, p = .000$)								
女性	ほとんど毎日	20783	(65.2)	142	(44.8)	86	(52.1)	21011	(65.0)
	5 - 6回	3239	(10.2)	28	(8.8)	26	(15.8)	3293	(10.2)
	4回前後	2270	(7.1)	20	(6.3)	17	(10.3)	2307	(7.1)
	3回前後	1406	(4.4)	18	(5.7)	8	(4.8)	1432	(4.4)
	2回前後	1435	(4.5)	22	(6.9)	6	(3.6)	1463	(4.5)
	ほとんど食べない	1578	(5.0)	39	(12.3)	8	(4.8)	1625	(5.0)
	母親がいない	691	(2.2)	46	(14.5)	8	(4.8)	745	(2.3)
	無回答	460	(1.4)	2	(.6)	6	(3.6)	468	(1.4)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
	($\chi^2 = 266.581, df = 6, p = .000$)								
全体	ほとんど毎日	39475	(61.3)	327	(44.0)	259	(58.6)	40061	(61.1)
	5 - 6回	7470	(11.6)	75	(10.1)	39	(8.8)	7584	(11.6)
	4回前後	5163	(8.0)	58	(7.8)	41	(9.3)	5262	(8.0)
	3回前後	3096	(4.8)	47	(6.3)	19	(4.3)	3162	(4.8)
	2回前後	3082	(4.8)	45	(6.0)	21	(4.8)	3148	(4.8)
	ほとんど食べない	3616	(5.6)	87	(11.7)	30	(6.8)	3733	(5.7)
	母親がいない	1441	(2.2)	93	(12.5)	21	(4.8)	1555	(2.4)
	無回答	1023	(1.6)	12	(1.6)	12	(2.7)	1047	(1.6)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
	($\chi^2 = 420.287, df = 6, p = .000$)								

これを「シンナー遊び」に関する法規制の必要性（表10）と比べた場合、「当然だと思う」を選んだ者は、「シンナー遊び」非経験者群では、男女共に約91～92%であったわけで、喫煙に関しては約16%強の低下と言うことになる。

3. 喫煙による医学的害について

「健康面から、喫煙をどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表36に示した。

回答の分布には、男女共に有意差（ $p < 0.01$ ）が認められ、未経験者群では男性の83%、女性の86%が「害ばかりで良い面はない」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は、男女共に64～62%であり、「害もあるが良い面もある」を選んだ者が28～31%いた。

しかし、「害よりも良い面の方が多い」を選択した者は、生涯喫煙経験に関わらず、極めて少数であり、喫煙の健康に及ぼす害についての知識は浸透していると推定される結果であった。

表27 父親と週何回くらい夕食を食べますか？

	生涯シンナー経験			全体	
	経験なし	経験あり	無回答		
男性	ほとんど毎日	8368 (25.8)	94 (22.4)	79 (28.6)	8541 (25.8)
	5 - 6回	3677 (11.3)	39 (9.3)	24 (8.7)	3740 (11.3)
	4回前後	3714 (11.4)	32 (7.6)	30 (10.9)	3776 (11.4)
	3回前後	3152 (9.7)	35 (8.3)	24 (8.7)	3211 (9.7)
	2回前後	5069 (15.6)	61 (14.5)	26 (9.4)	5156 (15.6)
	ほとんど食べない	3786 (11.7)	74 (17.6)	52 (18.8)	3912 (11.8)
	父親がいない	4059 (12.5)	75 (17.9)	34 (12.3)	4168 (12.6)
	無回答	629 (1.9)	10 (2.4)	7 (2.5)	646 (1.9)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 31.939$, $df = 6$, $p = .000$)					
女性	ほとんど毎日	7979 (25.0)	63 (19.9)	46 (27.9)	8088 (25.0)
	5 - 6回	3438 (10.8)	23 (7.3)	19 (11.5)	3480 (10.8)
	4回前後	3209 (10.1)	19 (6.0)	16 (9.7)	3244 (10.0)
	3回前後	3004 (9.4)	23 (7.3)	7 (4.2)	3034 (9.4)
	2回前後	5176 (16.2)	40 (12.6)	26 (15.8)	5242 (16.2)
	ほとんど食べない	3867 (12.1)	59 (18.6)	27 (16.4)	3953 (12.2)
	父親がいない	4669 (14.7)	84 (26.5)	20 (12.1)	4773 (14.8)
	無回答	520 (1.6)	6 (1.9)	4 (2.4)	530 (1.6)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 57.073$, $df = 6$, $p = .000$)					
全体	ほとんど毎日	16356 (25.4)	157 (21.1)	125 (28.3)	16638 (25.4)
	5 - 6回	7120 (11.1)	62 (8.3)	43 (9.7)	7225 (11.0)
	4回前後	6928 (10.8)	51 (6.9)	46 (10.4)	7025 (10.7)
	3回前後	6160 (9.6)	58 (7.8)	31 (7.0)	6249 (9.5)
	2回前後	10253 (15.9)	103 (13.8)	53 (12.0)	10409 (15.9)
	ほとんど食べない	7664 (11.9)	135 (18.1)	79 (17.9)	7878 (12.0)
	父親がいない	8733 (13.6)	162 (21.8)	54 (12.2)	8949 (13.7)
	無回答	1152 (1.8)	16 (2.2)	11 (2.5)	1179 (1.8)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 85.717$, $df = 6$, $p = .000$)					

4. 生涯喫煙経験と日常生活の規則性について

ということになるが、その差は小さいものである。

1)起床時間について

「起床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表37に示した。

非経験者群では83～85%の者が「一定している」を選んだのに対して、経験者群では、それを選んだ者は69%台であった。男女共に、経験者群の起床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ($p < 0.01$) に乱れていた。

「シンナー遊び」経験者群では、36～43%の者が「一定していない」を選んでいった(表20)が、生涯喫煙者群では約30%であり、生涯喫煙者群は「シンナー遊び」経験者群ほどは乱れていないと

(2)就床時間について

「就床時間は、ほぼ一定していますか？」との問いに対する回答の関係を表38に示した。

男女ともに、非経験者群では54～52%の者が「一定している」と答えたのに対して、経験者群では、約61～68%の者が一定していないと答えた。

男女共に、経験者群の就床時間は非経験者群のそれに比べて、有意 ($p < 0.01$) に乱れていた。

「シンナー遊び」経験者群では、64～65% (表21)の者が「一定していない」を選んでいったが、生涯喫煙者群では61～68%であり、「シンナー遊び」経験者群とほとんど差がなかった。

表28 大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	なし、あるいはほとんどなし	9789	(30.2)	92	(21.9)	76	(27.5)	9957	(30.0)
	1時間未満	6343	(19.5)	84	(20.0)	36	(13.0)	6463	(19.5)
	1時間以上2時間未満	6451	(19.9)	70	(16.7)	55	(19.9)	6576	(19.8)
	2時間以上3時間未満	4416	(13.6)	47	(11.2)	44	(15.9)	4507	(13.6)
	3時間以上	5175	(15.9)	118	(28.1)	50	(18.1)	5343	(16.1)
	無回答	280	(.9)	9	(2.1)	15	(5.4)	304	(.9)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 51.989, df = 4, p = .000$)									
女性	なし、あるいはほとんどなし	11728	(36.8)	84	(26.5)	54	(32.7)	11866	(36.7)
	1時間未満	5147	(16.2)	40	(12.6)	19	(11.5)	5206	(16.1)
	1時間以上2時間未満	5621	(17.6)	47	(14.8)	25	(15.2)	5693	(17.6)
	2時間以上3時間未満	4209	(13.2)	46	(14.5)	23	(13.9)	4278	(13.2)
	3時間以上	4877	(15.3)	94	(29.7)	35	(21.2)	5006	(15.5)
	無回答	280	(.9)	6	(1.9)	9	(5.5)	295	(.9)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 55.683, df = 4, p = .000$)									
全体	なし、あるいはほとんどなし	21528	(33.4)	178	(23.9)	130	(29.4)	21836	(33.3)
	1時間未満	11497	(17.9)	126	(16.9)	56	(12.7)	11679	(17.8)
	1時間以上2時間未満	12079	(18.8)	117	(15.7)	80	(18.1)	12276	(18.7)
	2時間以上3時間未満	8631	(13.4)	93	(12.5)	67	(15.2)	8791	(13.4)
	3時間以上	10065	(15.6)	215	(28.9)	85	(19.2)	10365	(15.8)
	無回答	566	(.9)	15	(2.0)	24	(5.4)	605	(.9)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 107.463, df = 4, p = .000$)									

表29 悩み事があるとき、親と相談する方だと思いますか？

	生涯シナナー経験						全体	
	経験なし		経験あり		無回答			
男性	よく相談する	2864 (8.8)	41 (9.8)	17 (6.2)	2922 (8.8)			
	どちらかといえば相談する	6718 (20.7)	47 (11.2)	40 (14.5)	6805 (20.5)			
	どちらかといえば相談しない	8347 (25.7)	78 (18.6)	46 (16.7)	8471 (25.6)			
	ほとんど相談しない	14295 (44.0)	213 (50.7)	80 (29.0)	14588 (44.0)			
	親がいない	129 (.4)	35 (8.3)	5 (1.8)	169 (.5)			
	無回答	101 (.3)	6 (1.4)	88 (31.9)	195 (.6)			
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)			
						($\chi^2 = 560.581, df = 4, p = .000$)		
女性	よく相談する	5335 (16.7)	22 (6.9)	16 (9.7)	5373 (16.6)			
	どちらかといえば相談する	8796 (27.6)	56 (17.7)	31 (18.8)	8883 (27.5)			
	どちらかといえば相談しない	7021 (22.0)	58 (18.3)	34 (20.6)	7113 (22.0)			
	ほとんど相談しない	10526 (33.0)	142 (44.8)	57 (34.5)	10725 (33.2)			
	親がいない	118 (.4)	38 (12.0)	1 (.6)	157 (.5)			
	無回答	66 (.2)	1 (.3)	26 (15.8)	93 (.3)			
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)			
						($\chi^2 = 919.234, df = 4, p = .000$)		
全体	よく相談する	8205 (12.7)	63 (8.5)	33 (7.5)	8301 (12.7)			
	どちらかといえば相談する	15515 (24.1)	103 (13.8)	71 (16.1)	15689 (23.9)			
	どちらかといえば相談しない	15379 (23.9)	137 (18.4)	80 (18.1)	15596 (23.8)			
	ほとんど相談しない	24852 (38.6)	357 (48.0)	137 (31.0)	25346 (38.7)			
	親がいない	247 (.4)	76 (10.2)	6 (1.4)	329 (.5)			
	無回答	168 (.3)	8 (1.1)	115 (26.0)	291 (.4)			
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)			
						($\chi^2 = 1513.885, df = 4, p = .000$)		

表30 親しく遊べる友人がいますか？

	生涯シナナー経験						全体	
	経験なし		経験あり		無回答			
男性	いる	31007 (95.5)	358 (85.2)	259 (93.8)	31624 (95.4)			
	いない	1350 (4.2)	58 (13.8)	16 (5.8)	1424 (4.3)			
	無回答	97 (.3)	4 (1.0)	1 (.4)	102 (.3)			
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)			
						($\chi^2 = 95.352, df = 1, p = .000$)		
女性	いる	30746 (96.5)	265 (83.6)	154 (93.3)	31165 (96.4)			
	いない	1030 (3.2)	52 (16.4)	10 (6.1)	1092 (3.4)			
	無回答	86 (.3)	0 (.0)	1 (.6)	87 (.3)			
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)			
						($\chi^2 = 166.914, df = 1, p = .000$)		
全体	いる	61798 (96.0)	628 (84.4)	414 (93.7)	62840 (95.9)			
	いない	2380 (3.7)	112 (15.1)	26 (5.9)	2518 (3.8)			
	無回答	188 (.3)	4 (.5)	2 (.5)	194 (.3)			
	合計	64366 (100)	7440 (100)	442 (100)	65552 (100)			
						($\chi^2 = 258.768, df = 1, p = .000$)		

(3)朝食について

「毎朝、朝食を食べていますか？」との問いに対する回答の分布を表39に示した。

非経験者群では男女ともに86～87%の者が「ほとんど毎日食べている」を選んだのに対して、経験者群では、「ほとんど毎日食べている」を選んだ者は68～66%であった。

男女共に、経験者群では、非経験者群に比べて、朝食頻度が有意 ($p < 0.01$) に低かった。

しかし、「シンナー遊び」経験者群では、「ほとんど毎日食べている」を選んだ者は66～57% (表22)であり、生涯喫煙者群での朝食頻度は、「シンナー遊び」経験者群よりは高いようである。

5. 喫煙経験と学校生活について

(1)学校生活について

「あなたにとって、学校生活は次のどれです

表31 相談事のできる友人がいますか？

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	いる	26221 (80.8)	281 (66.9)	212 (76.8)	26714 (80.6)	
	いない	6031 (18.6)	135 (32.1)	63 (22.8)	6229 (18.8)	
	無回答	202 (.6)	4 (1.0)	1 (.4)	207 (.6)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
		($\chi^2 = 50.727, df = 1, p = .000$)				
女性	いる	28493 (89.4)	228 (71.9)	143 (86.7)	28864 (89.2)	
	いない	3185 (10.0)	87 (27.4)	22 (13.3)	3294 (10.2)	
	無回答	184 (.6)	2 (.6)	0 (.0)	186 (.6)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
		($\chi^2 = 104.808, df = 1, p = .000$)				
全体	いる	54752 (85.1)	513 (69.0)	356 (80.5)	55621 (84.9)	
	いない	9223 (14.3)	225 (30.2)	85 (19.2)	9533 (14.5)	
	無回答	391 (.6)	6 (.8)	1 (.2)	398 (.6)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
		($\chi^2 = 151.136, df = 1, p = .000$)				

表32 喫煙の生涯経験率

		1年	2年	3年	全体	
男性	喫煙経験なし	9865 (89.0)	9114 (84.5)	8921 (79.0)	27900 (84.2)	
	喫煙経験あり	1096 (9.9)	1564 (14.5)	2232 (19.8)	4892 (14.8)	
	無回答	120 (1.1)	105 (1.0)	133 (1.2)	358 (1.1)	
	合計	11081 (100)	10783 (100)	11286 (100)	33150 (100)	
		($\chi^2 = 437.624, df = 2, p = .000$)				
女性	喫煙経験なし	9672 (91.7)	9403 (87.9)	9447 (85.1)	28522 (88.2)	
	喫煙経験あり	778 (7.4)	1227 (11.5)	1581 (14.2)	3586 (11.1)	
	無回答	94 (.9)	68 (.6)	74 (.7)	236 (.7)	
	合計	10544 (100)	10698 (100)	11102 (100)	32344 (100)	
		($\chi^2 = 259.077, df = 2, p = .000$)				
全体	喫煙経験なし	19550 (90.3)	18530 (86.2)	18380 (82.0)	56460 (86.1)	
	喫煙経験あり	1879 (8.7)	2796 (13.0)	3821 (17.1)	8496 (13.0)	
	無回答	216 (1.0)	173 (.8)	207 (.9)	596 (.9)	
	合計	21645 (100)	21499 (100)	22408 (100)	65552 (100)	
		($\chi^2 = 683.638, df = 2, p = .000$)				

か？」との問いに関する関係を表40に示した。

男女共に、経験者群と非経験者群とでは、回答の分布に有意差 ($p < 0.01$) が認められ、「まったく楽しくない」を選んだ者は、非経験者群では3

~2%であり、経験者群では男女共に7.5~7.6%であり、経験者群に「楽しくない」傾向の者が有意に多かった。

しかし、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれ4

表33 喫煙の1年経験率

		1年		2年		3年		全体	
男性	経験なし	10630	(95.9)	10077	(93.5)	10152	(90.0)	30859	(93.1)
	経験あり	386	(3.5)	638	(5.9)	1047	(9.3)	2071	(6.2)
	無回答	65	(.6)	68	(.6)	87	(.8)	220	(.7)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 324.947, df = 2, p = .000$)									
女性	経験なし	10213	(96.9)	10130	(94.7)	10275	(92.6)	30618	(94.7)
	経験あり	280	(2.7)	528	(4.9)	781	(7.0)	1589	(4.9)
	無回答	51	(.5)	40	(.4)	46	(.4)	137	(.4)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 221.785, df = 2, p = .000$)									
全体	経験なし	20859	(96.4)	20224	(94.1)	20440	(91.2)	61523	(93.9)
	経験あり	668	(3.1)	1167	(5.4)	1835	(8.2)	3670	(5.6)
	無回答	118	(.5)	108	(.5)	133	(.6)	359	(.5)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 545.140, df = 2, p = .000$)									

表34 未成年の喫煙をどう思いますか？（法の遵守）

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	法律で禁じられているから吸うべきではない	25012	(89.6)	2766	(56.5)	209	(58.4)	27987	(84.4)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	1959	(7.0)	1454	(29.7)	45	(12.6)	3458	(10.4)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	819	(2.9)	652	(13.3)	8	(2.2)	1479	(4.5)
	無回答	110	(.4)	20	(.4)	96	(26.8)	226	(.7)
	合計	27900	(100)	4892	(100)	358	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 3601.783, df = 2, p = .000$)									
女性	法律で禁じられているから吸うべきではない	25598	(89.7)	1784	(49.7)	155	(65.7)	27535	(85.1)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	2261	(7.9)	1298	(36.2)	34	(14.4)	3593	(11.1)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	591	(2.1)	477	(13.3)	9	(3.8)	1077	(3.3)
	無回答	72	(.3)	27	(.8)	38	(16.1)	137	(.4)
	合計	28522	(100)	3586	(100)	236	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 4117.894, df = 2, p = .000$)									
全体	法律で禁じられているから吸うべきではない	50638	(89.7)	4558	(53.6)	365	(61.2)	55561	(84.8)
	法律で禁じられてはいるが少々なら構わない	4225	(7.5)	2753	(32.4)	79	(13.3)	7057	(10.8)
	法律で禁じられてはいるが全然構わない	1414	(2.5)	1138	(13.4)	17	(2.9)	2569	(3.9)
	無回答	183	(.3)	47	(.6)	135	(22.7)	365	(.6)
	合計	56460	(100)	8496	(100)	596	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 7639.905, df = 2, p = .000$)									

表35 未成年の喫煙禁止をどう思いますか？（法規制の必要性）

	生涯喫煙経験						全体	
	喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	当然だと思う	20851 (74.7)	1845 (37.7)	156 (43.6)	22852 (68.9)			
	仕方がないことだと思う	5002 (17.9)	1781 (36.4)	73 (20.4)	6856 (20.7)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	345 (1.2)	350 (7.2)	6 (1.7)	701 (2.1)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1595 (5.7)	887 (18.1)	29 (8.1)	2511 (7.6)			
	無回答	107 (.4)	29 (.6)	94 (26.3)	230 (.7)			
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)			
						$(\chi^2 = 3051.033, df = 3, p = .000)$		
女性	当然だと思う	20966 (73.5)	1093 (30.5)	124 (52.5)	22183 (68.6)			
	仕方がないことだと思う	5660 (19.8)	1363 (38.0)	51 (21.6)	7074 (21.9)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	381 (1.3)	349 (9.7)	8 (3.4)	738 (2.3)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	1418 (5.0)	760 (21.2)	21 (8.9)	2199 (6.8)			
	無回答	97 (.3)	21 (.6)	32 (13.6)	150 (.5)			
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)			
						$(\chi^2 = 3569.350, df = 3, p = .000)$		
全体	当然だと思う	41838 (74.1)	2942 (34.6)	280 (47.0)	45060 (68.7)			
	仕方がないことだと思う	10669 (18.9)	3149 (37.1)	125 (21.0)	13943 (21.3)			
	未成年者が吸えないのはおかしい	729 (1.3)	700 (8.2)	14 (2.3)	1443 (2.2)			
	法律で決める必要はなく個人の自由	3019 (5.3)	1655 (19.5)	50 (8.4)	4724 (7.2)			
	無回答	205 (.4)	50 (.6)	127 (21.3)	382 (.6)			
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)			
						$(\chi^2 = 6496.066, df = 3, p = .000)$		

表36 健康面から喫煙をどう思いますか？

	生涯喫煙経験						全体	
	喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	害ばかりで良い面はない	23158 (83.0)	3118 (63.7)	199 (55.6)	26475 (79.9)			
	害もあるが良い面もある	3366 (12.1)	1377 (28.1)	40 (11.2)	4783 (14.4)			
	害よりも良い面の方が多い	262 (.9)	148 (3.0)	6 (1.7)	416 (1.3)			
	無回答	1114 (4.0)	249 (5.1)	113 (31.6)	1476 (4.5)			
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)			
						$(\chi^2 = 1090.353, df = 2, p = .000)$		
女性	害ばかりで良い面はない	24603 (86.3)	2235 (62.3)	156 (66.1)	26994 (83.5)			
	害もあるが良い面もある	3047 (10.7)	1120 (31.2)	32 (13.6)	4199 (13.0)			
	害よりも良い面の方が多い	141 (.5)	94 (2.6)	1 (.4)	236 (.7)			
	無回答	731 (2.6)	137 (3.8)	47 (19.9)	915 (2.8)			
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)			
						$(\chi^2 = 1465.934, df = 2, p = .000)$		
全体	害ばかりで良い面はない	47791 (84.6)	5358 (63.1)	355 (59.6)	53504 (81.6)			
	害もあるが良い面もある	6418 (11.4)	2503 (29.5)	73 (12.2)	8994 (13.7)			
	害よりも良い面の方が多い	404 (.7)	247 (2.9)	8 (1.3)	659 (1.0)			
	無回答	1847 (3.3)	388 (4.6)	160 (26.8)	2395 (3.7)			
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)			
						$(\chi^2 = 2558.716, df = 2, p = .000)$		

~3%、17~21%(表23)とは大きく異なっていた。

すか?」との問いに対する回答の関係を表41に示した。

(2)クラブ活動について

「放課後のクラブ活動(部活)に参加していま

男女共に、経験者群と非経験者群の間には、回答の分布に有意差(p<0.01)が認められ、非経験者群で「参加していない」を選んだ者は18%であったのに対して、経験者群では、男子で26%、

表37 起床時間は一定していますか?

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	はい	23053 (82.6)	3413 (69.8)	264 (73.7)	26730 (80.6)	
	いいえ	4771 (17.1)	1459 (29.8)	92 (25.7)	6322 (19.1)	
	無回答	76 (.3)	20 (.4)	2 (.6)	98 (.3)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = 440.388, df = 1, p = .000$)
女性	はい	24098 (84.5)	2493 (69.5)	175 (74.2)	26766 (82.8)	
	いいえ	4353 (15.3)	1084 (30.2)	61 (25.8)	5498 (17.0)	
	無回答	71 (.2)	9 (.3)	0 (.0)	80 (.2)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = 507.585, df = 1, p = .000$)
全体	はい	47178 (83.6)	5912 (69.6)	440 (73.8)	53530 (81.7)	
	いいえ	9129 (16.2)	2554 (30.1)	153 (25.7)	11836 (18.1)	
	無回答	153 (.3)	30 (.4)	3 (.5)	186 (.3)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = 969.430, df = 1, p = .000$)

表38 就寝時間は一定していますか?

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	はい	15161 (54.3)	1872 (38.3)	168 (46.9)	17201 (51.9)	
	いいえ	12600 (45.2)	2985 (61.0)	187 (52.2)	15772 (47.6)	
	無回答	139 (.5)	35 (.7)	3 (.8)	177 (.5)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	($\chi^2 = 427.867, df = 1, p = .000$)
女性	はい	14804 (51.9)	1135 (31.7)	93 (39.4)	16032 (49.6)	
	いいえ	13583 (47.6)	2430 (67.8)	142 (60.2)	16155 (49.9)	
	無回答	135 (.5)	21 (.6)	1 (.4)	157 (.5)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	($\chi^2 = 522.764, df = 1, p = .000$)
全体	はい	29983 (53.1)	3011 (35.4)	261 (43.8)	33255 (50.7)	
	いいえ	26197 (46.4)	5427 (63.9)	330 (55.4)	31954 (48.7)	
	無回答	280 (.5)	58 (.7)	5 (.8)	343 (.5)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	($\chi^2 = 918.265, df = 1, p = .000$)

女子で32%の者が「参加していない」を選んだ。

経験者群で、放課後のクラブ活動(部活)に参加していない者の割合が有意に多い傾向にあると解釈される。

しかしここでも、「シンナー遊び」経験者群のそれぞれは、19~20%、33~38%(表24)であり、大きく異なっていた。

6. 生涯喫煙経験と家庭生活について

(1) 家族との夕食頻度

「夕食を週何回くらい家族全員で食べますか?」との問いに関する関係を表42に、また「母親と週何回くらい夕食を食べますか?」「父親と週何回くらい夕食を食べますか?」の問いに対する関係を、それぞれ表43、表44に示した。

すべての場合において、回答の分布には有意差($p < 0.01$)が認められ、生涯喫煙経験者で家族全員との夕食頻度、母親との夕食頻度、父親との夕食頻度が低かった。しかし、その程度は、有機溶剤乱用経験の有無による場合よりは小さかった

(表25~27参照)。

なお、ここでも有機溶剤乱用経験の有無による場合と同様に、「父親との夕食頻度」は、「家族全員での夕食頻度」より低く、この論理的矛盾は、我が国の父親が置かれた社会状況を反映していると同時に、家族全員での夕食と言ったときに、中学生の解釈では、父親は既に含まれていない傾向が強いことを再度示していると解釈できる。

いずれにしても、経験者群では、非経験者群に比べて、家族との夕食頻度が有意($p < 0.01$)に少ないと解釈できる。

(2) 一日での大人不在の時間について

「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか?」の問いに対する回答の分布を表45に示した。

経験者群、非経験者群間で男女ともに統計学的有意差($p < 0.01$)が認められ、非経験者群で「3時間以上」を選んだ者は、142%であるのに対して、経験者群では26~30%であった。

表39 毎朝、朝食を食べますか?

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	ほとんど毎日食べている	24059 (86.2)	3340 (68.3)	280 (78.2)	27679 (83.5)	
	時々食べる	2476 (8.9)	856 (17.5)	46 (12.8)	3378 (10.2)	
	ほとんど食べない	1301 (4.7)	677 (13.8)	30 (8.4)	2008 (6.1)	
	無回答	64 (.2)	19 (.4)	2 (.6)	85 (.3)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 1047.394, df = 2, p = .000$)						
女性	ほとんど毎日食べている	24860 (87.2)	2332 (65.0)	174 (73.7)	27366 (84.6)	
	時々食べる	2439 (8.6)	719 (20.1)	36 (15.3)	3194 (9.9)	
	ほとんど食べない	1161 (4.1)	522 (14.6)	26 (11.0)	1709 (5.3)	
	無回答	62 (.2)	13 (.4)	0 (.0)	75 (.2)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 1282.135, df = 2, p = .000$)						
全体	ほとんど毎日食べている	48947 (86.7)	5679 (66.8)	455 (76.3)	55081 (84.0)	
	時々食べる	4919 (8.7)	1581 (18.6)	82 (13.8)	6582 (10.0)	
	ほとんど食べない	2464 (4.4)	1203 (14.2)	57 (9.6)	3724 (5.7)	
	無回答	130 (.2)	33 (.4)	2 (.3)	165 (.3)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 2326.614, df = 2, p = .000$)						

表40 あなたにとって学校生活は？

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	とても楽しい	10491 (37.6)	1509 (30.8)	121 (33.8)	12121 (36.6)	
	どちらかといえば楽しい	13500 (48.4)	2257 (46.1)	163 (45.5)	15920 (48.0)	
	あまり楽しくない	3001 (10.8)	739 (15.1)	50 (14.0)	3790 (11.4)	
	まったく楽しくない	848 (3.0)	372 (7.6)	23 (6.4)	1243 (3.7)	
	無回答	60 (.2)	15 (.3)	1 (.3)	76 (.2)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 358.703, df = 3, p = .000$)						
女性	とても楽しい	12312 (43.2)	1214 (33.9)	91 (38.6)	13617 (42.1)	
	どちらかといえば楽しい	12374 (43.4)	1512 (42.2)	106 (44.9)	13992 (43.3)	
	あまり楽しくない	3100 (10.9)	583 (16.3)	31 (13.1)	3714 (11.5)	
	まったく楽しくない	672 (2.4)	270 (7.5)	8 (3.4)	950 (2.9)	
	無回答	64 (.2)	7 (.2)	0 (.0)	71 (.2)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 437.800, df = 3, p = .000$)						
全体	とても楽しい	22819 (40.4)	2726 (32.1)	213 (35.7)	25758 (39.3)	
	どちらかといえば楽しい	25886 (45.8)	3776 (44.4)	269 (45.1)	29931 (45.7)	
	あまり楽しくない	6105 (10.8)	1324 (15.6)	81 (13.6)	7510 (11.5)	
	まったく楽しくない	1520 (2.7)	647 (7.6)	32 (5.4)	2199 (3.4)	
	無回答	130 (.2)	23 (.3)	1 (.2)	154 (.2)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 817.233, df = 3, p = .000$)						

表41 クラブ活動に参加していますか？

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	積極的に参加している	19453 (69.7)	2774 (56.7)	217 (60.6)	22444 (67.7)	
	消極的に参加している	3231 (11.6)	773 (15.8)	51 (14.2)	4055 (12.2)	
	参加していない	4972 (17.8)	1290 (26.4)	82 (22.9)	6344 (19.1)	
	無回答	244 (.9)	55 (1.1)	8 (2.2)	307 (.9)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 324.644, df = 2, p = .000$)						
女性	積極的に参加している	19666 (69.0)	1806 (50.4)	149 (63.1)	21621 (66.8)	
	消極的に参加している	3293 (11.5)	569 (15.9)	24 (10.2)	3886 (12.0)	
	参加していない	5238 (18.4)	1162 (32.4)	58 (24.6)	6458 (20.0)	
	無回答	325 (1.1)	49 (1.4)	5 (2.1)	379 (1.2)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 529.953, df = 2, p = .000$)						
全体	積極的に参加している	39138 (69.3)	4587 (54.0)	367 (61.6)	44092 (67.3)	
	消極的に参加している	6530 (11.6)	1346 (15.8)	76 (12.8)	7952 (12.1)	
	参加していない	10220 (18.1)	2458 (28.9)	140 (23.5)	12818 (19.6)	
	無回答	572 (1.0)	105 (1.2)	13 (2.2)	690 (1.1)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 814.308, df = 2, p = .000$)						

経験者群で大人不在の時間が有意に長い傾向が示唆された。

この傾向は、有機溶剤乱用の経験の有無の場合と同様であるが、「シンナー遊び」経験者群で「3時間以上」を選んだ者の割合は、男子で28%、女子で30%（表28）であり、有機溶剤経験者群と喫煙経験者群とでは、その差は2~0%と少なかった。

(3) 親との相談について

「悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？」との問いに対する回答の分布を表46に

示した。

男女ともに、回答の分布に有意差 ($p < 0.01$) が認められ、非経験者群で「ほとんど相談しない方である」を選んだ者は、男子で42%、女子で32%であるのに対して、経験者群ではそれぞれ55%、43%であった。

この結果は、有機溶剤乱用の有無による場合(表29：男子で51%、女子で45%)に比べて、男子で4%、女子では2%しか変わらない結果であった。

同時に、喫煙経験の有無に関わらず、男女ともに「よく相談する方である」と答えた者が少ないのも、有機溶剤乱用経験の有無による場合と同じ

表42 週何回、家族全員で夕食を食べますか？

		生涯喫煙経験			全体				
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	8470	(30.4)	1291	(26.4)	106	(29.6)	9867	(29.8)
	5 - 6回	3135	(11.2)	497	(10.2)	44	(12.3)	3676	(11.1)
	4回前後	3024	(10.8)	472	(9.6)	33	(9.2)	3529	(10.6)
	3回前後	2802	(10.0)	420	(8.6)	28	(7.8)	3250	(9.8)
	2回前後	5283	(18.9)	823	(16.8)	61	(17.0)	6167	(18.6)
	ほとんど食べない	5007	(17.9)	1363	(27.9)	80	(22.3)	6450	(19.5)
	無回答	179	(.6)	26	(.5)	6	(1.7)	211	(.6)
	合計	27900	(100)	4892	(100)	358	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 261.337, df = 5, p = .000$)									
女性	ほとんど毎日	8905	(31.2)	945	(26.4)	67	(28.4)	9917	(30.7)
	5 - 6回	3144	(11.0)	318	(8.9)	30	(12.7)	3492	(10.8)
	4回前後	2933	(10.3)	328	(9.1)	24	(10.2)	3285	(10.2)
	3回前後	2651	(9.3)	304	(8.5)	15	(6.4)	2970	(9.2)
	2回前後	5725	(20.1)	560	(15.6)	36	(15.3)	6321	(19.5)
	ほとんど食べない	4968	(17.4)	1107	(30.9)	61	(25.8)	6136	(19.0)
	無回答	196	(.7)	24	(.7)	3	(1.3)	223	(.7)
	合計	28522	(100)	3586	(100)	236	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 381.620, df = 5, p = .000$)									
全体	ほとんど毎日	17379	(30.8)	2241	(26.4)	173	(29.0)	19793	(30.2)
	5 - 6回	6283	(11.1)	815	(9.6)	74	(12.4)	7172	(10.9)
	4回前後	5962	(10.6)	801	(9.4)	57	(9.6)	6820	(10.4)
	3回前後	5455	(9.7)	726	(8.5)	45	(7.6)	6226	(9.5)
	2回前後	11013	(19.5)	1387	(16.3)	97	(16.3)	12497	(19.1)
	ほとんど食べない	9991	(17.7)	2475	(29.1)	141	(23.7)	12607	(19.2)
	無回答	377	(.7)	51	(.6)	9	(1.5)	437	(.7)
	合計	56460	(100)	8496	(100)	596	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 624.136, df = 5, p = .000$)									

であった。

7. 喫煙と友人関係について

(1) 遊び友達について

「親しく遊べる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表47に示した。
男女ともに、「いない」と答えた者は経験者群

で多い傾向が伺え、男女ともに経験者群と非経験者群との間に有意差 ($p < 0.01$) が認められた。しかし、数字からは、ほとんど差がないと解釈した方が現実的のように思われる結果であった。

(2) 相談事のできる友人について

「相談事のできる友人がいますか？」との問いに対する回答の分布を表48に示した。

表43 週何回、母親と夕食を食べますか？

	生涯喫煙経験						全体	
	喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	ほとんど毎日	16499 (59.1)	2314 (47.3)	209 (58.4)	19022 (57.4)			
	5 - 6回	3607 (12.9)	637 (13.0)	42 (11.7)	4286 (12.9)			
	4回前後	2440 (8.7)	478 (9.8)	29 (8.1)	2947 (8.9)			
	3回前後	1395 (5.0)	319 (6.5)	12 (3.4)	1726 (5.2)			
	2回前後	1346 (4.8)	322 (6.6)	16 (4.5)	1684 (5.1)			
	ほとんど食べない	1579 (5.7)	496 (10.1)	27 (7.5)	2102 (6.3)			
	母親がいない	559 (2.0)	232 (4.7)	16 (4.5)	807 (2.4)			
	無回答	475 (1.7)	94 (1.9)	7 (2.0)	576 (1.7)			
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)			
						$\chi^2 = 412.305, df = 6, p = .000$		
女性	ほとんど毎日	19086 (66.9)	1799 (50.2)	126 (53.4)	21011 (65.0)			
	5 - 6回	2892 (10.1)	366 (10.2)	35 (14.8)	3293 (10.2)			
	4回前後	2001 (7.0)	293 (8.2)	13 (5.5)	2307 (7.1)			
	3回前後	1199 (4.2)	217 (6.1)	16 (6.8)	1432 (4.4)			
	2回前後	1224 (4.3)	229 (6.4)	10 (4.2)	1463 (4.5)			
	ほとんど食べない	1196 (4.2)	405 (11.3)	24 (10.2)	1625 (5.0)			
	母親がいない	523 (1.8)	215 (6.0)	7 (3.0)	745 (2.3)			
	無回答	401 (1.4)	62 (1.7)	5 (2.1)	468 (1.4)			
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)			
						$\chi^2 = 762.958, df = 6, p = .000$		
全体	ほとんど毎日	35607 (63.1)	4119 (48.5)	335 (56.2)	40061 (61.1)			
	5 - 6回	6502 (11.5)	1005 (11.8)	77 (12.9)	7584 (11.6)			
	4回前後	4445 (7.9)	774 (9.1)	43 (7.2)	5262 (8.0)			
	3回前後	2595 (4.6)	538 (6.3)	29 (4.9)	3162 (4.8)			
	2回前後	2570 (4.6)	552 (6.5)	26 (4.4)	3148 (4.8)			
	ほとんど食べない	2781 (4.9)	901 (10.6)	51 (8.6)	3733 (5.7)			
	母親がいない	1082 (1.9)	450 (5.3)	23 (3.9)	1555 (2.4)			
	無回答	878 (1.6)	157 (1.8)	12 (2.0)	1047 (1.6)			
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)			
						$\chi^2 = 1156.272, df = 6, p = .000$		

男子では、経験者群・非経験者群間での%の違いはさほどなかったが、女子では経験者群の方で「いない」と答えた者が有意に多かった。

3. 飲酒について

わが国では、中学生といえども、飲酒の生涯経験率(これまでに1回でも飲酒したことのある率)

は、男子では約75%、女子では68%と高く⁷⁾⁸⁾、飲酒機会から見たその内容は、「冠婚葬祭時」及び「家で家族と共に」の飲酒が多い⁷⁾⁸⁾こともあり、飲酒の生涯経験から中学生の飲酒を論じても、ほとんど意味がないため⁷⁾⁸⁾、本報告書では、飲酒機会ごとの生涯経験率を表49、「シンナー遊び」の経験と飲酒の経験・機会を表50に示すのみとした。

飲酒の生涯経験者の割合は、機会に関わらず、男女ともに、学年が進むにつれて、増加していた。

表44 週何回、父親と夕食を食べますか？

		生涯喫煙経験			全体
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答	
男性	ほとんど毎日	7338 (26.3)	1098 (22.4)	105 (29.3)	8541 (25.8)
	5 - 6回	3233 (11.6)	465 (9.5)	42 (11.7)	3740 (11.3)
	4回前後	3241 (11.6)	498 (10.2)	37 (10.3)	3776 (11.4)
	3回前後	2772 (9.9)	408 (8.3)	31 (8.7)	3211 (9.7)
	2回前後	4427 (15.9)	693 (14.2)	36 (10.1)	5156 (15.6)
	ほとんど食べない	3078 (11.0)	776 (15.9)	58 (16.2)	3912 (11.8)
	父親がいない	3273 (11.7)	853 (17.4)	42 (11.7)	4168 (12.6)
	無回答	538 (1.9)	101 (2.1)	7 (2.0)	646 (1.9)
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 256.795, df = 6, p = .000$)					
女性	ほとんど毎日	7281 (25.5)	751 (20.9)	56 (23.7)	8088 (25.0)
	5 - 6回	3166 (11.1)	289 (8.1)	25 (10.6)	3480 (10.8)
	4回前後	2923 (10.2)	305 (8.5)	16 (6.8)	3244 (10.0)
	3回前後	2761 (9.7)	255 (7.1)	18 (7.6)	3034 (9.4)
	2回前後	4775 (16.7)	439 (12.2)	28 (11.9)	5242 (16.2)
	ほとんど食べない	3268 (11.5)	634 (17.7)	51 (21.6)	3953 (12.2)
	父親がいない	3897 (13.7)	841 (23.5)	35 (14.8)	4773 (14.8)
	無回答	451 (1.6)	72 (2.0)	7 (3.0)	530 (1.6)
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 435.625, df = 6, p = .000$)					
全体	ほとんど毎日	14624 (25.9)	1853 (21.8)	161 (27.0)	16638 (25.4)
	5 - 6回	6404 (11.3)	754 (8.9)	67 (11.2)	7225 (11.0)
	4回前後	6169 (10.9)	803 (9.5)	53 (8.9)	7025 (10.7)
	3回前後	5536 (9.8)	663 (7.8)	50 (8.4)	6249 (9.5)
	2回前後	9207 (16.3)	1138 (13.4)	64 (10.7)	10409 (15.9)
	ほとんど食べない	6357 (11.3)	1411 (16.6)	110 (18.5)	7878 (12.0)
	父親がいない	7172 (12.7)	1700 (20.0)	77 (12.9)	8949 (13.7)
	無回答	991 (1.8)	174 (2.0)	14 (2.3)	1179 (1.8)
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 641.484, df = 6, p = .000$)					

機会別では、男女共に「冠婚葬祭時」「家族と食事などで」での飲酒経験率が高かった。しかし、3年生で「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」での飲酒経験率が急増していた（表49）。

4. 「シンナー遊び」と他の依存性薬物使用との関係

1. 「シンナー遊び」と飲酒との関係

「シンナー - 遊び」の経験の有無と生涯飲酒経験率及びその機会との関係を表50に示した。

男女共に、飲酒経験のない者は「シンナー - 遊び」未経験者群で有意 ($p < 0.01$) に多かった。

また、男子の「冠婚葬祭時」を除けば、全ての場合において有機溶剤乱用経験者群で飲酒経験率が有意に高かった（表50）。特に「クラス会、打ち上げなど」「カラオケ、居酒屋など」「自分の部屋など」「一人で」での両群の違いは著しく、大人の同席しない場での飲酒問題を改めた確認することとなった⁷⁾¹⁷⁾。

家族の要因は解釈が難しいが、上記の結果は、「シンナー遊び」における「仲間」の存在とその影響力の大きさの一側面を物語っていると解釈される。

2. 「シンナー遊び」と喫煙との関係

「シンナー - 遊び」経験の有無と喫煙経験との関係を表51に示した。

「シンナー - 遊び」経験の有無と喫煙経験の有無

表45 一日の大人不在の平均時間

		生涯喫煙経験			全体
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答	
男性	なし、あるいはほとんどなし	8673 (31.1)	1190 (24.3)	94 (26.3)	9957 (30.0)
	1時間未満	5684 (20.4)	721 (14.7)	58 (16.2)	6463 (19.5)
	1時間以上2時間未満	5595 (20.1)	908 (18.6)	73 (20.4)	6576 (19.8)
	2時間以上3時間未満	3715 (13.3)	735 (15.0)	57 (15.9)	4507 (13.6)
	3時間以上	4006 (14.4)	1272 (26.0)	65 (18.2)	5343 (16.1)
	無回答	227 (.8)	66 (1.3)	11 (3.1)	304 (.9)
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)
$\chi^2 = 496.864, df = 4, p = .000$					
女性	なし、あるいはほとんどなし	10837 (38.0)	968 (27.0)	61 (25.8)	11866 (36.7)
	1時間未満	4742 (16.6)	433 (12.1)	31 (13.1)	5206 (16.1)
	1時間以上2時間未満	5129 (18.0)	525 (14.6)	39 (16.5)	5693 (17.6)
	2時間以上3時間未満	3698 (13.0)	533 (14.9)	47 (19.9)	4278 (13.2)
	3時間以上	3871 (13.6)	1085 (30.3)	50 (21.2)	5006 (15.5)
	無回答	245 (.9)	42 (1.2)	8 (3.4)	295 (.9)
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)
$\chi^2 = 751.019, df = 4, p = .000$					
全体	なし、あるいはほとんどなし	19520 (34.6)	2160 (25.4)	156 (26.2)	21836 (33.3)
	1時間未満	10431 (18.5)	1159 (13.6)	89 (14.9)	11679 (17.8)
	1時間以上2時間未満	10730 (19.0)	1433 (16.9)	113 (19.0)	12276 (18.7)
	2時間以上3時間未満	7416 (13.1)	1271 (15.0)	104 (17.4)	8791 (13.4)
	3時間以上	7887 (14.0)	2363 (27.8)	115 (19.3)	10365 (15.8)
	無回答	476 (.8)	110 (1.3)	19 (3.2)	605 (.9)
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)
$\chi^2 = 1219.184, df = 4, p = .000$					

表46 親と相談するか

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男 性	よく相談する	2620	(9.4)	279	(5.7)	23	(6.4)	2922	(8.8)
	どちらかといえば相談する	6119	(21.9)	655	(13.4)	31	(8.7)	6805	(20.5)
	どちらかといえば相談しない	7225	(25.9)	1176	(24.0)	70	(19.6)	8471	(25.6)
	ほとんど相談しない	11783	(42.2)	2667	(54.5)	138	(38.5)	14588	(44.0)
	親がない	77	(.3)	88	(1.8)	4	(1.1)	169	(.5)
	無回答	76	(.3)	27	(.6)	92	(25.7)	195	(.6)
	合計	27900	(100)	4892	(100)	358	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 552.093, df = 4, p = .000$)									
女 性	よく相談する	4923	(17.3)	433	(12.1)	17	(7.2)	5373	(16.6)
	どちらかといえば相談する	8123	(28.5)	701	(19.5)	59	(25.0)	8883	(27.5)
	どちらかといえば相談しない	6243	(21.9)	816	(22.8)	54	(22.9)	7113	(22.0)
	ほとんど相談しない	9102	(31.9)	1548	(43.2)	75	(31.8)	10725	(33.2)
	親がない	72	(.3)	84	(2.3)	1	(.4)	157	(.5)
	無回答	59	(.2)	4	(.1)	30	(12.7)	93	(.3)
	合計	28522	(100)	3586	(100)	236	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 552.554, df = 4, p = .000$)									
全 体	よく相談する	7548	(13.4)	713	(8.4)	40	(6.7)	8301	(12.7)
	どちらかといえば相談する	14243	(25.2)	1356	(16.0)	90	(15.1)	15689	(23.9)
	どちらかといえば相談しない	13476	(23.9)	1996	(23.5)	124	(20.8)	15596	(23.8)
	ほとんど相談しない	20908	(37.0)	4224	(49.7)	214	(35.9)	25346	(38.7)
	親がない	149	(.3)	175	(2.1)	5	(.8)	329	(.5)
	無回答	136	(.2)	32	(.4)	123	(20.6)	291	(.4)
	合計	56460	(100)	8496	(100)	596	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 1194.133, df = 4, p = .000$)									

表47 親しく遊べる友人はいますか？

		生涯喫煙経験						全体	
		喫煙経験なし		喫煙経験あり		無回答			
男性	いる	26669	(95.6)	4620	(94.4)	335	(93.6)	31624	(95.4)
	いない	1148	(4.1)	258	(5.3)	18	(5.0)	1424	(4.3)
	無回答	83	(.3)	14	(.3)	5	(1.4)	102	(.3)
	合計	27900	(100)	4892	(100)	358	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 13.618, df = 1, p = .000$)									
女性	いる	27540	(96.6)	3394	(94.6)	231	(97.9)	31165	(96.4)
	いない	910	(3.2)	178	(5.0)	4	(1.7)	1092	(3.4)
	無回答	72	(.3)	14	(.4)	1	(.4)	87	(.3)
	合計	28522	(100)	3586	(100)	236	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 30.794, df = 1, p = .000$)									
全体	いる	54243	(96.1)	8029	(94.5)	568	(95.3)	62840	(95.9)
	いない	2058	(3.6)	438	(5.2)	22	(3.7)	2518	(3.8)
	無回答	159	(.3)	29	(.3)	6	(1.0)	194	(.3)
	合計	56460	(100)	8496	(100)	596	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 45.754, df = 1, p = .000$)									

との間には、男女共に有意差が認められた ($P < 0.01$)。つまり、喫煙経験は、「シンナー遊び」経験者群に有意に多い。「シンナー - 遊び」未経験者群での喫煙経験者は、男子で14%、女子で11%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、男子で50%、女子で56%と、両群間には著しい違いがあった。

一方、喫煙経験の有無から「シンナー遊び」の経験の有無を見たのが、表52である。喫煙経験のない者の中で有機溶剤乱用経験がある者は、男子で0.7%、女子で0.5%に過ぎないが、喫煙経験のある者では男子で4.3%、女子で4.9%であり、両群には有意差が認められた。

これらは、中学生にとっての喫煙が「シンナー遊び」と強い繋がりを持っていることを強く示唆するものである³⁾。

3. 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

(1) 大麻乱用の生涯経験率について

各学年・性別毎に大麻乱用の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことのある率）を表53に示した。

男女ともに、学年があがるに連れて生涯経験率も高くなる結果であった。生涯経験率は男子では0.6%（1年生で0.4%、2年生で0.7%、3年生で0.7%）であり、女子では0.4%（1年生で0.3%、2年生で0.

4%、3年生で0.5%）であった。全体では0.5%（1年生で0.4%、2年生で0.5%、3年生で0.6%）であった。この生涯経験率の年次推移は考察で論じる。

(2) 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験との関係を表54に示した。

結果には男女ともに有意差 ($p < 0.01$) が認められ、「シンナー遊び」未経験者では、男子で0.3%、女子で0.1%の者が大麻乱用の経験があると答えたのに対して、経験者群では、男子で24.5%、女子で26.2%の者が大麻乱用の経験があると答えた。

この両群による違いは、1996年調査～2002年調査の結果と同じ傾向であり、「シンナー遊び」と大麻乱用との関係を強く示唆している。

(3) 大麻吸引に対する意識について

「大麻を吸うことをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表55に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ($p < 0.01$) が認められた。「シンナー遊び」未経験者群では、男女共に96～97%の者が「吸うべきではないと思う」を選んだのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、それを選んだ者は、男子で68%、女子で64%

表48 相談事の出来る友人はいますか？

		生涯喫煙経験			全体	
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答		
男性	いる	22497 (80.6)	3937 (80.5)	280 (78.2)	26714 (80.6)	
	いない	5233 (18.8)	921 (18.8)	75 (20.9)	6229 (18.8)	
	無回答	170 (.6)	34 (.7)	3 (.8)	207 (.6)	
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = .021, df = 1, p = .886$)						
女性	いる	25560 (89.6)	3090 (86.2)	214 (90.7)	28864 (89.2)	
	いない	2806 (9.8)	470 (13.1)	18 (7.6)	3294 (10.2)	
	無回答	156 (.5)	26 (.7)	4 (1.7)	186 (.6)	
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 37.637, df = 1, p = .000$)						
全体	いる	48088 (85.2)	7037 (82.8)	496 (83.2)	55621 (84.9)	
	いない	8042 (14.2)	1398 (16.5)	93 (15.6)	9533 (14.5)	
	無回答	330 (.6)	61 (.7)	7 (1.2)	398 (.6)	
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 29.642, df = 1, p = .000$)						

であり、20～21%の者が「まったくかまわない」と答えた。

また、「麻薬・覚せい剤と違って少々なら構わない」と答えた者も、「シンナー遊び」経験者で、男子で10%、女子で13%おり、麻薬・覚せい剤に比べて、大麻の害を軽視する傾向が伺われた。

(4)大麻乱用による医学的害について

「大麻を吸うと、精神病状態や無動機症候群に

なることがあるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表56に示した。

2002年調査²¹⁾では、「知っている」を選んだ者は男女ともに有機溶剤乱用経験者群の方がわずかに多かった(有意差はない)が、今回は、非経験者群の方が多い結果であった(ただし有意差なし)。

有機溶剤乱用経験の有無に関わらず、「知っている」者の割合は決して高いとは言えず、今後の薬物乱用防止教育の課題であると解釈された。

表49 飲酒の生涯経験率

	1年	2年	3年	全体		
男性						
飲んだ経験なし	5333 (48.1)	4484 (41.6)	3932 (34.8)	13749 (41.5)	($\chi^2 = 406.792$, $df = 2$, $p = .000$)	
冠婚葬祭	3448 (31.1)	3804 (35.3)	4266 (37.8)	11518 (34.7)	($\chi^2 = 112.131$, $df = 2$, $p = .000$)	
家族と食事などで	2841 (25.6)	3270 (30.3)	3858 (34.2)	9969 (30.1)	($\chi^2 = 194.650$, $df = 2$, $p = .000$)	
クラス会、打ち上げなど	437 (3.9)	527 (4.9)	940 (8.3)	1904 (5.7)	($\chi^2 = 220.253$, $df = 2$, $p = .000$)	
カラオケ、居酒屋など	238 (2.1)	334 (3.1)	532 (4.7)	1104 (3.3)	($\chi^2 = 117.043$, $df = 2$, $p = .000$)	
自分の部屋など	256 (2.3)	555 (5.1)	1104 (9.8)	1915 (5.8)	($\chi^2 = 585.121$, $df = 2$, $p = .000$)	
一人で	370 (3.3)	563 (5.2)	1018 (9.0)	1951 (5.9)	($\chi^2 = 338.510$, $df = 2$, $p = .000$)	
その他の機会に	28 (.3)	24 (.2)	25 (.2)	77 (.2)		
無回答	55 (.5)	40 (.4)	58 (.5)	153 (.5)		
合計	11081 (100)	10783 (100)	11286 (100)	33150 (100)		
女性						
飲んだ経験なし	5345 (50.7)	4531 (42.4)	4111 (37.0)	13987 (43.2)	($\chi^2 = 416.489$, $df = 2$, $p = .000$)	
冠婚葬祭	2977 (28.2)	3610 (33.7)	3895 (35.1)	10482 (32.4)	($\chi^2 = 128.871$, $df = 2$, $p = .000$)	
家族と食事などで	3027 (28.7)	3741 (35.0)	4326 (39.0)	11094 (34.3)	($\chi^2 = 255.680$, $df = 2$, $p = .000$)	
クラス会、打ち上げなど	320 (3.0)	554 (5.2)	922 (8.3)	1796 (5.6)	($\chi^2 = 290.644$, $df = 2$, $p = .000$)	
カラオケ、居酒屋など	243 (2.3)	376 (3.5)	560 (5.0)	1179 (3.6)	($\chi^2 = 116.328$, $df = 2$, $p = .000$)	
自分の部屋など	286 (2.7)	628 (5.9)	1054 (9.5)	1968 (6.1)	($\chi^2 = 436.488$, $df = 2$, $p = .000$)	
一人で	286 (2.7)	525 (4.9)	712 (6.4)	1523 (4.7)	($\chi^2 = 166.475$, $df = 2$, $p = .000$)	
その他の機会に	30 (.3)	20 (.2)	16 (.1)	66 (.2)		
無回答	52 (.5)	24 (.2)	37 (.3)	113 (.3)		
合計	10544 (100)	10698 (100)	11102 (100)	32344 (100)		
全体						
飲んだ経験なし	10682 (49.4)	9021 (42.0)	8048 (35.9)	27751 (42.3)	($\chi^2 = 815.902$, $df = 2$, $p = .000$)	
冠婚葬祭	6435 (29.7)	7420 (34.5)	8167 (36.4)	22022 (33.6)	($\chi^2 = 234.774$, $df = 2$, $p = .000$)	
家族と食事などで	5874 (27.1)	7015 (32.6)	8192 (36.6)	21081 (32.2)	($\chi^2 = 451.093$, $df = 2$, $p = .000$)	
クラス会、打ち上げなど	760 (3.5)	1082 (5.0)	1866 (8.3)	3708 (5.7)	($\chi^2 = 501.873$, $df = 2$, $p = .000$)	
カラオケ、居酒屋など	484 (2.2)	712 (3.3)	1096 (4.9)	2292 (3.5)	($\chi^2 = 233.246$, $df = 2$, $p = .000$)	
自分の部屋など	544 (2.5)	1187 (5.5)	2164 (9.7)	3895 (5.9)	($\chi^2 = 1015.550$, $df = 2$, $p = .000$)	
一人で	658 (3.0)	1090 (5.1)	1734 (7.7)	3482 (5.3)	($\chi^2 = 486.930$, $df = 2$, $p = .000$)	
その他の機会に	59 (.3)	44 (.2)	41 (.2)	144 (.2)		
無回答	107 (.5)	65 (.3)	96 (.4)	268 (.4)		
合計	21645 (100)	21499 (100)	22408 (100)	65552 (100)		

4. 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用との関係

4% (1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.4%)であり、全体では0.5% (0.3%、0.5%、0.6%)であった。

(1) 覚せい剤乱用の生涯経験率について

この生涯経験率の年次推移は考察で論じる。

覚せい剤乱用の生涯経験率 (これまでに1回でも経験したことがある者の率) を表57に示した。

(2) 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用経験との関係

覚せい剤の生涯経験率は、男子では0.5% (1年生0.4%、2年生0.6%、3年生0.7%) で、女子では0.

「シンナー遊び」の経験と覚せい剤乱用経験と

表50 「シンナー遊び」経験と飲酒の経験・機会 (複数回答)

	生涯シンナー経験			全体		
	経験なし	経験あり	無回答			
男性						
飲んだ経験なし	13606 (41.9)	70 (16.7)	73 (26.4)	13749 (41.5)		($\chi^2 = 108.875, df=1, p=.000$)
冠婚葬祭	11291 (34.8)	164 (39.0)	63 (22.8)	11518 (34.7)		($\chi^2 = 3.309, df=1, p=.069$)
家族と食事などで	9733 (30.0)	182 (43.3)	54 (19.6)	9969 (30.1)		($\chi^2 = 35.046, df=1, p=.000$)
クラス会、打ち上げなど	1810 (5.6)	77 (18.3)	17 (6.2)	1904 (5.7)		($\chi^2 = 124.699, df=1, p=.000$)
カラオケ、居酒屋など	1031 (3.2)	61 (14.5)	12 (4.3)	1104 (3.3)		($\chi^2 = 166.237, df=1, p=.000$)
自分の部屋など	1788 (5.5)	103 (24.5)	24 (8.7)	1915 (5.8)		($\chi^2 = 276.518, df=1, p=.000$)
一人で	1802 (5.6)	125 (29.8)	24 (8.7)	1951 (5.9)		($\chi^2 = 440.392, df=1, p=.000$)
その他の機会に	73 (.2)	1 (.2)	3 (1.1)	77 (.2)		
無回答	62 (.2)	3 (.7)	88 (31.9)	153 (.5)		
合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)		
女性						
飲んだ経験なし	13899 (43.6)	44 (13.9)	44 (26.7)	13987 (43.2)		($\chi^2 = 113.076, df=1, p=.000$)
冠婚葬祭	10313 (32.4)	129 (40.7)	40 (24.2)	10482 (32.4)		($\chi^2 = 9.927, df=1, p=.002$)
家族と食事などで	10891 (34.2)	145 (45.7)	58 (35.2)	11094 (34.3)		($\chi^2 = 18.613, df=1, p=.000$)
クラス会、打ち上げなど	1700 (5.3)	85 (26.8)	11 (6.7)	1796 (5.6)		($\chi^2 = 276.364, df=1, p=.000$)
カラオケ、居酒屋など	1089 (3.4)	81 (25.6)	9 (5.5)	1179 (3.6)		($\chi^2 = 438.893, df=1, p=.000$)
自分の部屋など	1840 (5.8)	110 (34.7)	18 (10.9)	1968 (6.1)		($\chi^2 = 461.323, df=1, p=.000$)
一人で	1400 (4.4)	106 (33.4)	17 (10.3)	1523 (4.7)		($\chi^2 = 593.543, df=1, p=.000$)
その他の機会に	62 (.2)	3 (.9)	1 (.6)	66 (.2)		
無回答	79 (.2)	1 (.3)	33 (20.0)	113 (.3)		
合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)		
全体						
飲んだ経験なし	27520 (42.8)	114 (15.3)	117 (26.5)	27751 (42.3)		($\chi^2 = 226.581, df=1, p=.000$)
冠婚葬祭	21623 (33.6)	296 (39.8)	103 (23.3)	22022 (33.6)		($\chi^2 = 12.624, df=1, p=.000$)
家族と食事などで	20637 (32.1)	331 (44.5)	113 (25.6)	21081 (32.2)		($\chi^2 = 52.026, df=1, p=.000$)
クラス会、打ち上げなど	3514 (5.5)	166 (22.3)	28 (6.3)	3708 (5.7)		($\chi^2 = 391.718, df=1, p=.000$)
カラオケ、居酒屋など	2124 (3.3)	147 (19.8)	21 (4.8)	2292 (3.5)		($\chi^2 = 591.827, df=1, p=.000$)
自分の部屋など	3634 (5.6)	219 (29.4)	42 (9.5)	3895 (5.9)		($\chi^2 = 747.650, df=1, p=.000$)
一人で	3206 (5.0)	235 (31.6)	41 (9.3)	3482 (5.3)		($\chi^2 = 1040.055, df=1, p=.000$)
その他の機会に	135 (.2)	5 (.7)	4 (.9)	144 (.2)		
無回答	143 (.2)	4 (.5)	121 (27.4)	268 (.4)		
合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)		

の関係を表58に示した。

「シンナー遊び」未経験者では、覚せい剤乱用の経験があると選んだ者は、男子で0.2%、女子で0.1%、全体で0.2%であったのに対して、「シンナー遊び」経験者では、男子で22.6%、女子で25.9%の者が、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ。

これも、過去3回の本調査と同じ結果であり、大麻同様、中学生における「シンナー遊び」と覚

せい剤乱用との関係を強く示唆するものであった。

(3) 覚せい剤乱用による医学的害について

「覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表59に示し

表51 「シンナー遊び」経験と喫煙経験の関係

		生涯シンナー経験			全体
		経験なし	経験あり	無回答	
男性	喫煙経験なし	27572 (85.0)	204 (48.6)	124 (44.9)	27900 (84.2)
	喫煙経験あり	4635 (14.3)	209 (49.8)	48 (17.4)	4892 (14.8)
	無回答	247 (.8)	7 (1.7)	104 (37.7)	358 (1.1)
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 422.926, df = 1, p = .000$)					
女性	喫煙経験なし	28293 (88.8)	137 (43.2)	92 (55.8)	28522 (88.2)
	喫煙経験あり	3375 (10.6)	177 (55.8)	34 (20.6)	3586 (11.1)
	無回答	194 (.6)	3 (.9)	39 (23.6)	236 (.7)
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 658.061, df = 1, p = .000$)					
全体	喫煙経験なし	55903 (86.9)	341 (45.8)	216 (48.9)	56460 (86.1)
	喫煙経験あり	8021 (12.5)	392 (52.7)	83 (18.8)	8496 (13.0)
	無回答	442 (.7)	11 (1.5)	143 (32.4)	596 (.9)
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 1072.665, df = 1, p = .000$)					

表52 喫煙経験と「シンナー遊び」経験の関係

	生涯シンナー経験	生涯喫煙経験			全体
		喫煙経験なし	喫煙経験あり	無回答	
男性	経験なし	27572 (98.8)	4635 (94.7)	247 (69.0)	32454 (97.9)
	経験あり	204 (.7)	209 (4.3)	7 (2.0)	420 (1.3)
	無回答	124 (.4)	48 (1.0)	104 (29.1)	276 (.8)
	合計	27900 (100)	4892 (100)	358 (100)	33150 (100)
($\chi^2 = 422.926, df = 1, p = .000$)					
女性	経験なし	28293 (99.2)	3375 (94.1)	194 (82.2)	31862 (98.5)
	経験あり	137 (.5)	177 (4.9)	3 (1.3)	317 (1.0)
	無回答	92 (.3)	34 (.9)	39 (16.5)	165 (.5)
	合計	28522 (100)	3586 (100)	236 (100)	32344 (100)
($\chi^2 = 658.061, df = 1, p = .000$)					
全体	経験なし	55903 (99.0)	8021 (94.4)	442 (74.2)	64366 (98.2)
	経験あり	341 (.6)	392 (4.6)	11 (1.8)	744 (1.1)
	無回答	216 (.4)	83 (1.0)	143 (24.0)	442 (.7)
	合計	56460 (100)	8496 (100)	596 (100)	65552 (100)
($\chi^2 = 1072.665, df = 1, p = .000$)					

た。

2002年調査²¹⁾では、「知っている」を選んだ者は男女ともに有機溶剤乱用非経験者群の方がわずかに多かった（有意差はない）が、今回は、経験者群の方が多結果であった。

有機溶剤乱用経験の有無に関わらず、「知っている」者の割合は決して高いとは言えず、今後の

薬物乱用防止教育の課題であると解釈された。

5. 違法薬物の入手可能性について

(1) 乱用のための有機溶剤の入手可能性について

表53 大麻乱用の生涯経験率

		1年		2年		3年		全体	
男性	大麻経験なし	10882	(98.2)	10591	(98.2)	11091	(98.3)	32564	(98.2)
	大麻経験あり	47	(.4)	70	(.6)	76	(.7)	193	(.6)
	無回答	152	(1.4)	122	(1.1)	119	(1.1)	393	(1.2)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 7.145, df = 2, p = .028$)									
女性	大麻経験なし	10423	(98.9)	10558	(98.7)	10960	(98.7)	31941	(98.8)
	大麻経験あり	31	(.3)	38	(.4)	55	(.5)	124	(.4)
	無回答	90	(.9)	102	(1.0)	87	(.8)	279	(.9)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 6.050, df = 2, p = .049$)									
全体	大麻経験なし	21321	(98.5)	21167	(98.5)	22067	(98.5)	64555	(98.5)
	大麻経験あり	79	(.4)	108	(.5)	133	(.6)	320	(.5)
	無回答	245	(1.1)	224	(1.0)	208	(.9)	677	(1.0)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 11.871, df = 2, p = .003$)									

表54 「シナ-遊び」経験と大麻乱用経験

		生涯シナ-遊び経験			全体				
		経験なし	経験あり	無回答					
男性	大麻経験なし	32050	(98.8)	305	(72.6)	209	(75.7)	32564	(98.2)
	大麻経験あり	85	(.3)	103	(24.5)	5	(1.8)	193	(.6)
	無回答	319	(1.0)	12	(2.9)	62	(22.5)	393	(1.2)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 4377.258, df = 1, p = .000$)									
女性	大麻経験なし	31592	(99.2)	229	(72.2)	120	(72.7)	31941	(98.8)
	大麻経験あり	37	(.1)	83	(26.2)	4	(2.4)	124	(.4)
	無回答	233	(.7)	5	(1.6)	41	(24.8)	279	(.9)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 5790.453, df = 1, p = .000$)									
全体	大麻経験なし	63689	(98.9)	536	(72.0)	330	(74.7)	64555	(98.5)
	大麻経験あり	122	(.2)	189	(25.4)	9	(2.0)	320	(.5)
	無回答	555	(.9)	19	(2.6)	103	(23.3)	677	(1.0)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 10009.791, df = 1, p = .000$)									

表55 大麻を吸うことをどう思いますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	吸うべきではない	31236	(96.2)	284	(67.6)	220	(79.7)	31740	(95.7)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	368	(1.1)	40	(9.5)	10	(3.6)	418	(1.3)
	全く構わない	541	(1.7)	83	(19.8)	13	(4.7)	637	(1.9)
	無回答	309	(1.0)	13	(3.1)	33	(12.0)	355	(1.1)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
	($\chi^2 = 1006.886, df = 2, p = .000$)								
女性	吸うべきではない	30899	(97.0)	202	(63.7)	134	(81.2)	31235	(96.6)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	417	(1.3)	41	(12.9)	10	(6.1)	468	(1.4)
	全く構わない	307	(1.0)	67	(21.1)	5	(3.0)	379	(1.2)
	無回答	239	(.8)	7	(2.2)	16	(9.7)	262	(.8)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
	($\chi^2 = 1453.728, df = 2, p = .000$)								
全体	吸うべきではない	62178	(96.6)	488	(65.6)	354	(80.1)	63020	(96.1)
	麻薬・覚せい剤と違って 少々なら構わない	785	(1.2)	82	(11.0)	20	(4.5)	887	(1.4)
	全く構わない	851	(1.3)	154	(20.7)	19	(4.3)	1024	(1.6)
	無回答	552	(.9)	20	(2.7)	49	(11.1)	621	(.9)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
	($\chi^2 = 2436.970, df = 2, p = .000$)								

表56 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	知っている	19207	(59.2)	247	(58.8)	132	(47.8)	19586	(59.1)
	知らない	12595	(38.8)	144	(34.3)	112	(40.6)	12851	(38.8)
	無回答	652	(2.0)	29	(6.9)	32	(11.6)	713	(2.2)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 1.245, df = 1, p = .265$)									
女性	知っている	19937	(62.6)	196	(61.8)	82	(49.7)	20215	(62.5)
	知らない	11560	(36.3)	113	(35.6)	68	(41.2)	11741	(36.3)
	無回答	365	(1.1)	8	(2.5)	15	(9.1)	388	(1.2)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = .002, df = 1, p = .962$)									
全体	知っている	39168	(60.9)	449	(60.3)	214	(48.4)	39831	(60.8)
	知らない	24177	(37.6)	258	(34.7)	181	(41.0)	24616	(37.6)
	無回答	1021	(1.6)	37	(5.0)	47	(10.6)	1105	(1.7)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = .831, df = 1, p = .362$)									

乱用のための有機溶剤の入手可能性についての回答の分布を表60に示した。

「シンナー遊び」非経験者群では、「ほとんど不可能」「絶対不可能」を選んだ者の合計が男性で73%、女性で75%と半数を超えていたが、「シンナー遊び」経験者群では、「簡単に手に入る」「少々苦労するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計は、男性で55%、女性で61%にものぼった。

全体では「シンナー遊び」非経験者群では、「ほとんど不可能」「絶対不可能」を選んだ者の合計が74%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、「簡単に手に入る」「少々苦労するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計が、逆に58%にものぼっていた。両群間には明らかな違い ($p < 0.01$) が認められた。

表57 覚せい剤の乱用経験（生涯経験率）

		1年		2年		3年		全体	
男性	覚せい剤経験なし	10885	(98.2)	10609	(98.4)	11100	(98.4)	32594	(98.3)
	覚せい剤経験あり	42	(.4)	60	(.6)	73	(.6)	175	(.5)
	無回答	154	(1.4)	114	(1.1)	113	(1.0)	381	(1.1)
	合計	11081	(100)	10783	(100)	11286	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 7.764, df = 2, p = .021$)									
女性	覚せい剤経験なし	10418	(98.8)	10557	(98.7)	10964	(98.8)	31939	(98.7)
	覚せい剤経験あり	30	(.3)	45	(.4)	49	(.4)	124	(.4)
	無回答	96	(.9)	96	(.9)	89	(.8)	281	(.9)
	合計	10544	(100)	10698	(100)	11102	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 4.050, df = 2, p = .132$)									
全体	覚せい剤経験なし	21320	(98.5)	21184	(98.5)	22078	(98.5)	64582	(98.5)
	覚せい剤経験あり	72	(.3)	105	(.5)	127	(.6)	304	(.5)
	無回答	253	(1.2)	210	(1.0)	203	(.9)	666	(1.0)
	合計	21645	(100)	21499	(100)	22408	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 13.358, df = 2, p = .001$)									

表58 「シンナー遊び」経験と覚せい剤乱用経験の関係

		生涯シンナー経験			全体				
		経験なし	経験あり	無回答					
男性	覚せい剤経験なし	32074	(98.8)	307	(73.1)	213	(77.2)	32594	(98.3)
	覚せい剤経験あり	76	(.2)	95	(22.6)	4	(1.4)	175	(.5)
	無回答	304	(.9)	18	(4.3)	59	(21.4)	381	(1.1)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 4158.734, df = 1, p = .000$)									
女性	覚せい剤経験なし	31588	(99.1)	230	(72.6)	121	(73.3)	31939	(98.7)
	覚せい剤経験あり	40	(.1)	82	(25.9)	2	(1.2)	124	(.4)
	無回答	234	(.7)	5	(1.6)	42	(25.5)	281	(.9)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 5554.657, df = 1, p = .000$)									
全体	覚せい剤経験なし	63708	(99.0)	540	(72.6)	334	(75.6)	64582	(98.5)
	覚せい剤経験あり	117	(.2)	180	(24.2)	7	(1.6)	304	(.5)
	無回答	541	(.8)	24	(3.2)	101	(22.9)	666	(1.0)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 9573.207, df = 1, p = .000$)									

表59 覚せい剤を使うと精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	知っている	20296	(62.5)	270	(64.3)	137	(49.6)	20703	(62.5)
	知らない	11738	(36.2)	130	(31.0)	109	(39.5)	11977	(36.1)
	無回答	420	(1.3)	20	(4.8)	30	(10.9)	470	(1.4)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 2.922, df = 1, p = .087$)									
女性	知っている	21340	(67.0)	215	(67.8)	79	(47.9)	21634	(66.9)
	知らない	10249	(32.2)	94	(29.7)	68	(41.2)	10411	(32.2)
	無回答	273	(.9)	8	(2.5)	18	(10.9)	299	(.9)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = .572, df = 1, p = .449$)									
全体	知っている	41662	(64.7)	492	(66.1)	216	(48.9)	42370	(64.6)
	知らない	22005	(34.2)	224	(30.1)	178	(40.3)	22407	(34.2)
	無回答	699	(1.1)	28	(3.8)	48	(10.9)	775	(1.2)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 3.365, df = 1, p = .067$)									

表60 有機溶剤の入手可能性

		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	絶対不可能	18976	(58.5)	126	(30.0)	141	(51.1)	19243	(58.0)
	ほとんど不可能	4713	(14.5)	53	(12.6)	34	(12.3)	4800	(14.5)
	少々苦労するが手に入る	3879	(12.0)	78	(18.6)	29	(10.5)	3986	(12.0)
	簡単に手に入る	4317	(13.3)	151	(36.0)	39	(14.1)	4507	(13.6)
	無回答	569	(1.8)	12	(2.9)	33	(12.0)	614	(1.9)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 232.984, df = 3, p = .000$)									
女性	絶対不可能	19276	(60.5)	86	(27.1)	72	(43.6)	19434	(60.1)
	ほとんど不可能	4715	(14.8)	34	(10.7)	28	(17.0)	4777	(14.8)
	少々苦労するが手に入る	4063	(12.8)	69	(21.8)	24	(14.5)	4156	(12.8)
	簡単に手に入る	3192	(10.0)	125	(39.4)	19	(11.5)	3336	(10.3)
	無回答	616	(1.9)	3	(.9)	22	(13.3)	641	(2.0)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 341.525, df = 3, p = .000$)									
全体	絶対不可能	38278	(59.5)	212	(28.5)	213	(48.2)	38703	(59.0)
	ほとんど不可能	9431	(14.7)	87	(11.7)	62	(14.0)	9580	(14.6)
	少々苦労するが手に入る	7947	(12.3)	149	(20.0)	53	(12.0)	8149	(12.4)
	簡単に手に入る	7521	(11.7)	281	(37.8)	58	(13.1)	7860	(12.0)
	無回答	1189	(1.8)	15	(2.0)	56	(12.7)	1260	(1.9)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 577.247, df = 3, p = .000$)									

(2) 大麻の入手可能性について

大麻の入手可能性についての回答の分布を表61に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦労するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で18%、女子で17%で、経験者群では、男子で46%、女子で52%であり、両群には有意差 ($p < 0.01$) が認められ、「シンナー遊び」経験者群での大麻入手可能性の高さが強く示唆された。

また、1998年調査では、入手可能性は男性の方が高かったが、2000年調査以降は%上は女性の方が高くなっていた。

(3) 覚せい剤の入手可能性について

覚せい剤の入手可能性についての回答の分布を表62に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦労するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー

遊び」未経験者群では、男子で17%、女子で18%で、経験者群では、男性で45%、女性で54%であり、両群には有意差 ($p < 0.01$) が認められた。

この結果は、大麻の入手可能性の値とほぼ同じであり、同時に、「シンナー遊び」経験者群での覚せい剤入手可能性の高さが強く示唆された。

また、1998年調査では、入手可能性は男女で拮抗していたが、2000年調査以降は%上は女性の方が高くなっていた。

以上、3つの違法性薬物の入手可能性については、考察で論じたい。

D. 考察

1. 本調査研究の位置づけ

わが国の中学生における「シンナー遊び」の広がりについての調査研究で、地域特性を考慮して行われた大規模なものとしては、当分担研究者の知る限り、1990年から原則2年に1回、当分担研究者らによって実施されてきた千葉県公立中学校

表61 大麻の入手可能性

		生涯シンナー経験			全体	
		経験なし	経験あり	無回答		
男性	絶対不可能	21271 (65.5)	152 (36.2)	153 (55.4)	21576 (65.1)	
	ほとんど不可能	4905 (15.1)	65 (15.5)	37 (13.4)	5007 (15.1)	
	少々苦労するが手に入る	3634 (11.2)	86 (20.5)	29 (10.5)	3749 (11.3)	
	簡単に手に入る	2122 (6.5)	106 (25.2)	25 (9.1)	2253 (6.8)	
	無回答	522 (1.6)	11 (2.6)	32 (11.6)	565 (1.7)	
	合計	32454 (100)	420 (100)	276 (100)	33150 (100)	
($\chi^2 = 303.320, df = 3, p = .000$)						
女性	絶対不可能	21014 (66.0)	103 (32.5)	82 (49.7)	21199 (65.5)	
	ほとんど不可能	4717 (14.8)	45 (14.2)	25 (15.2)	4787 (14.8)	
	少々苦労するが手に入る	3749 (11.8)	69 (21.8)	23 (13.9)	3841 (11.9)	
	簡単に手に入る	1825 (5.7)	96 (30.3)	12 (7.3)	1933 (6.0)	
	無回答	557 (1.7)	4 (1.3)	23 (13.9)	584 (1.8)	
	合計	31862 (100)	317 (100)	165 (100)	32344 (100)	
($\chi^2 = 395.208, df = 3, p = .000$)						
全体	絶対不可能	42311 (65.7)	255 (34.3)	235 (53.2)	42801 (65.3)	
	ほとんど不可能	9628 (15.0)	111 (14.9)	62 (14.0)	9801 (15.0)	
	少々苦労するが手に入る	7389 (11.5)	156 (21.0)	52 (11.8)	7597 (11.6)	
	簡単に手に入る	3955 (6.1)	207 (27.8)	37 (8.4)	4199 (6.4)	
	無回答	1083 (1.7)	15 (2.0)	56 (12.7)	1154 (1.8)	
	合計	64366 (100)	744 (100)	442 (100)	65552 (100)	
($\chi^2 = 711.557, df = 3, p = .000$)						

表62 覚せい剤の入手可能性

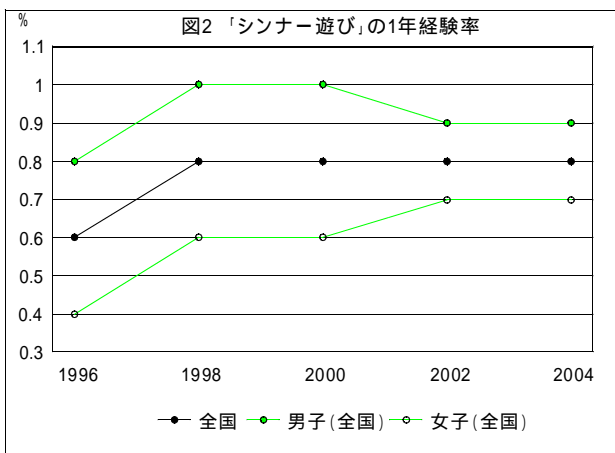
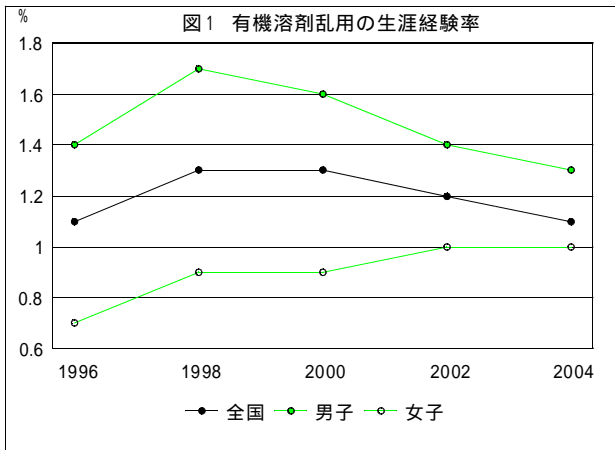
		生涯シンナー経験						全体	
		経験なし		経験あり		無回答			
男性	絶対不可能	21486	(66.2)	147	(35.0)	160	(58.0)	21793	(65.7)
	ほとんど不可能	4771	(14.7)	72	(17.1)	33	(12.0)	4876	(14.7)
	少々苦労するが手に入る	3505	(10.8)	83	(19.8)	33	(12.0)	3621	(10.9)
	簡単に手に入る	2196	(6.8)	108	(25.7)	19	(6.9)	2323	(7.0)
	無回答	496	(1.5)	10	(2.4)	31	(11.2)	537	(1.6)
	合計	32454	(100)	420	(100)	276	(100)	33150	(100)
($\chi^2 = 308.515, df = 3, p = .000$)									
女性	絶対不可能	20934	(65.7)	101	(31.9)	83	(50.3)	21118	(65.3)
	ほとんど不可能	4566	(14.3)	41	(12.9)	23	(13.9)	4630	(14.3)
	少々苦労するが手に入る	3752	(11.8)	74	(23.3)	25	(15.2)	3851	(11.9)
	簡単に手に入る	2072	(6.5)	97	(30.6)	12	(7.3)	2181	(6.7)
	無回答	538	(1.7)	4	(1.3)	22	(13.3)	564	(1.7)
	合計	31862	(100)	317	(100)	165	(100)	32344	(100)
($\chi^2 = 359.588, df = 3, p = .000$)									
全体	絶対不可能	42444	(65.9)	248	(33.3)	243	(55.0)	42935	(65.5)
	ほとんど不可能	9344	(14.5)	114	(15.3)	56	(12.7)	9514	(14.5)
	少々苦労するが手に入る	7263	(11.3)	158	(21.2)	58	(13.1)	7479	(11.4)
	簡単に手に入る	4277	(6.6)	210	(28.2)	31	(7.0)	4518	(6.9)
	無回答	1038	(1.6)	14	(1.9)	54	(12.2)	1106	(1.7)
	合計	64366	(100)	744	(100)	442	(100)	65552	(100)
($\chi^2 = 682.409, df = 3, p = .000$)									

表63 「シンナー遊び」生涯経験率の推移 (%) (「無回答」を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.4	1.2	1.3	1.7	0.7	0.7	0.6	0.9	1.1	0.9	1.0	1.3	108	53,440
1998	1.7	1.2	1.6	2.3	0.9	0.9	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.7	148	71,299
2000	1.6	1.4	1.6	1.9	0.9	0.8	0.8	1.1	1.3	1.1	1.2	1.5	140	61,675
2002	1.4	1.3	1.4	1.5	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.2	1.3	1.3	149	62,413
2004	1.3	1.2	1.1	1.6	1.0	0.9	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.3	147	65,110

表64 「シンナー遊び」1年経験率の推移 (%) (「無回答」を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.8	0.6	0.8	1.0	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	108	52,229
1998	1.0	0.7	0.9	1.3	0.6	0.6	0.5	0.7	0.8	0.6	0.7	1.0	148	70,302
2000	1.0	0.8	0.9	1.1	0.6	0.5	0.5	0.7	0.8	0.6	0.7	0.9	140	60,280
2002	0.9	0.8	0.9	0.9	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8	149	60,800
2004	0.9	0.8	0.8	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	0.9	147	65,299



調査⁵⁾¹²⁾¹⁴⁾と、1996年から2年に1回、厚生(労働)科学研究費補助金により、当分担研究者らにより継続調査されてきた全国調査¹⁰⁾¹³⁾²⁰⁾²¹⁾に限られている。

その結果、有機溶剤乱用の生涯経験率が明らかになり、有機溶剤乱用経験者群では非経験者群に比べて、日常生活の規則性が有意に乱れており、家族性が希薄(精神的単親家庭⁵⁾と称した)で、友人関係にも難があることが明らかになっている⁵⁾¹²⁾¹⁴⁾。

また、地域的には、有機溶剤の乱用は昼夜人口比と強い相関があり、夜間に人口が多く、昼間に人口の少ない地域ほど経験率が高いこと¹⁹⁾、及び、有機溶剤の乱用経験と喫煙経験・喫煙頻度とは強い相関があり⁶⁾、わが国の中学生では喫煙が有機溶剤乱用へのGateway Drug³⁾となっている可能性が高いことも指摘してきた²²⁾。

今回の調査研究は、上記一連の調査研究を継続的に発展させたものであり、わが国では薬物乱用

に関する第5回目の全国中学生調査である。

2. 「シンナー遊び」の広がりについて

今回の調査研究では、「シンナー遊び」の生涯経験率(無回答を除いたもの)は、男子では1.3%(1年生1.2%,2年生1.1%,3年生1.6%)、女子では1.0%(1年生0.9%,2年生1.0%,3年生1.0%)、全体では1.1%(1年生1.1%,2年生1.1%,3年生1.3%)であった。

表63、図1は生涯経験率の年次推移を示しているが、2002年調査との比較では、男子及び全体では減少してはいるものの、女子では横這いであった。しかし、男女ともに、1年生、2年生での生涯経験率が低下していたことは、望ましい傾向であると考えられる。

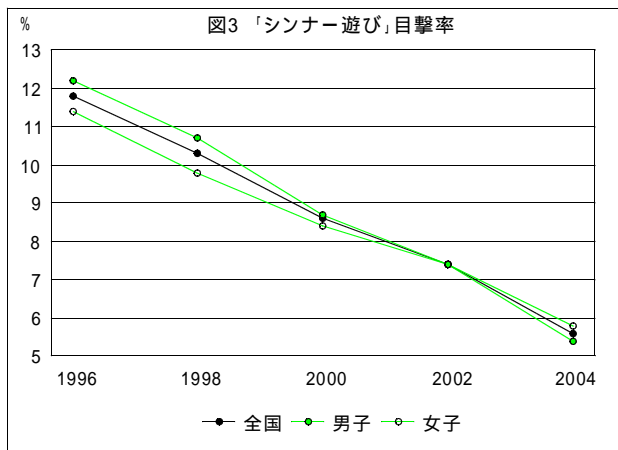
一方、1年経験率は、流行の勢いを探る意味では生涯経験率よりは優れているはずである。しかし、個人情報の秘密保持という意味でのバイアスは生涯経験率よりは高いと考えられる。そのため、1996年調査~2002年調査では、すべて「経験あり」の人数よりは「無回答」の人数の方が多いという結果であった。しかし、今回は、「経験あり」が「無回答」を初めて上回る結果であった。ただし、バイアスの高さを想定して、従来通り、参考として、1年経験率の推移を載せた(表64、図2)。

図2及び表64に見るように、1年経験率は2002年調査とほぼ同じ結果であった。

ところで、この種の調査で最も問題になるのは、結果の信頼性であろう。この信頼性は、自記式調査と同時に、何らかの客観的検査(たとえば尿からの馬尿酸の測定)を実施することによって、初めて明らかになることである。しかしながら、尿検査の実施は、個人の人権上の問題にも関わる難しい方法であり、実施は事実上不可能である。したがって、当研究者らは、類似した方法論にもとづく継続的な調査の結果によるトレンドを見ることが、本調査研究の主目的であると考えている。

同時に「シンナー遊び」の広がり増減を判断するには、経験率だけではなく、いくつかの関連する指標の結果をも考慮して、総合的に判断する必要があると考えている。

そこで採用しているのが、「シンナー遊び」をこれまでに目撃したことのある者の率(生涯目撃



率：表65、図3）身近に「シンナー - 遊び」をしている人を知っている者の率（乱用者周知率：表66、図4）「シンナー - 遊び」に誘われたことのある者の率（生涯被誘惑率：表67、図5）である。それらを見ると、目撃率、乱用者周知率は確実に減少傾向にあり、有機溶剤乱用の「流行の勢い」が弱くなってきていることが強く示唆される。

ただし、生涯被誘惑率は、男子では減少傾向が見られるものの、女子でのそれには、その傾向が認められず、2002年調査では男女差がなくなり、今回の2004年調査では、男子より高い値となっている。誘惑に対する女子の対策が必要かも知れない。

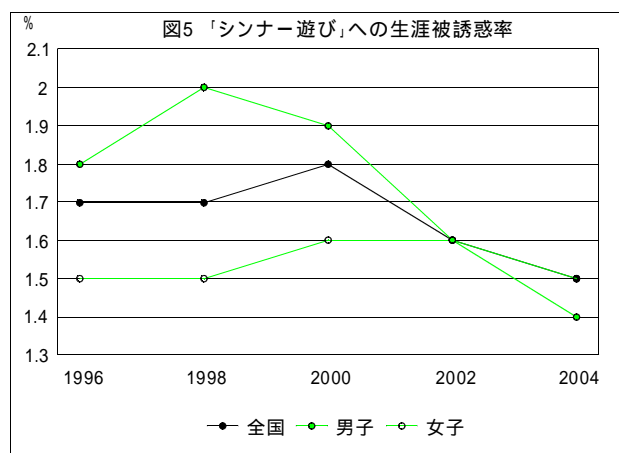
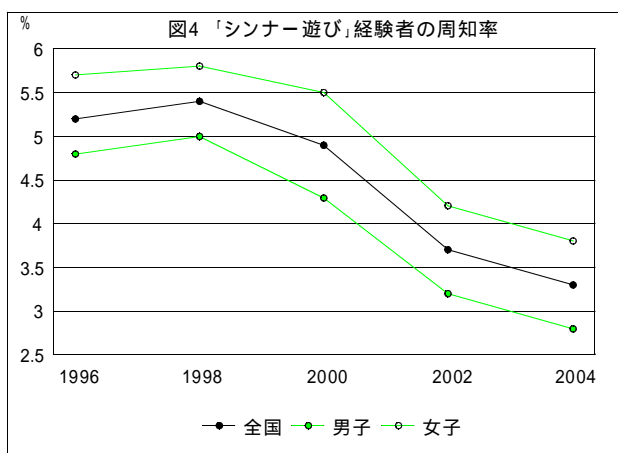


表65 「シンナー遊び」を実際に見たことがある者の率 (%) (「無回答」を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	12.2	9.9	12.6	14.1	11.4	9.2	12.0	13.1	11.8	9.5	12.3	13.6	108	53,863
1998	10.7	8.8	10.0	13.3	9.8	8.3	9.5	11.5	10.3	8.5	9.7	12.4	148	71,599
2000	8.7	7.5	8.3	10.2	8.4	7.0	7.9	10.2	8.6	7.2	8.1	10.2	140	61,905
2002	7.4	6.3	7.6	8.3	7.4	6.8	7.3	7.9	7.4	6.6	7.5	8.1	149	62,611
2004	5.4	4.9	4.6	6.6	5.8	4.9	6.1	6.4	5.6	4.9	5.3	6.5	147	65,296

表66 身近に「シンナー遊び」をしている人がいると答えた者の割合（乱用者周知率） (%) (「無回答」を除いて掲載したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	4.8	3.6	4.6	6.4	5.7	3.9	6.2	6.9	5.2	3.7	5.4	6.6	108	53,697
1998	5.0	3.4	4.9	6.6	5.8	4.1	5.8	7.4	5.4	3.7	5.4	7.0	148	71,379
2000	4.3	2.9	4.5	5.5	5.5	4.0	5.1	7.4	4.9	3.4	4.8	6.5	140	61,773
2002	3.2	2.4	3.5	3.7	4.2	3.3	4.4	4.7	3.7	2.8	3.9	4.2	149	62,517
2004	2.8	2.3	2.7	3.3	3.8	2.9	3.5	4.9	3.3	2.6	3.1	4.1	147	65,124

ちなみに本調査の記載上の「正確さ」を見るため、有機溶剤未経験者における「シンナー遊び」についての気持ちに関し、回答の矛盾を表8に示した。それを見る限り、調査用紙への記載に関しては、本調査は極めて正確に実施されていると推定される。

以上を総合すると、「シンナー遊び」の「流行の勢い」は確実に弱くなって来ていると考えられる。

3. 「シンナー - 遊び」と日常生活・家庭生活・友人関係

「シンナー遊び」経験者群と非経験者群との比較では、「起床時間の規則性」(表20)、「就床時間の規則性」(表21)、「朝食の摂取率」(表22)から見た日常生活の規則性、及び「学校生活への思い」(表23)、「クラブ活動の参加状況」(表24)、「親しく遊べる友人の存在」(表30)、「相談事の出来る友人の存在」(表31)において、統計的有意差が認められており、「シンナー遊び」経験者群での日常生活の不規則さ、学校生活への不満、友人関係の希薄さが明かである。

これらの背景には、そもそもの家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられるが、表25～27に見る家族との夕食頻度の差は、今回の調査でも「シンナー遊び」経験者群と非経験者群とで有意差を示していた。

ところで、「父親との夕食頻度(表27)」は、「家族全員での夕食頻度(表25)」よりも低率になっており、これは明らかに矛盾である。しかも、この矛盾は、これまでの同種の調査⁵⁾¹⁰⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾²¹⁾でも毎回認められており、中学生の考えの中には、「家族全員での夕食」と言った時、父親の存在は既に除外されている傾向がそれなりにあることを示唆

している。つまり、その背景には、父親はいつも帰りが遅いものだという中学生の考え方を伺うことができる。

そもそも、当研究者らは、夕食には「一家団欒」という意味合いがあると考えて調査項目に入れてきた。しかし、この夕食頻度には地域差が大きく、都市部ほど低く、農村部・山間部ほど高い傾向がある。「一家団欒」には、家族としての精神的意味合いも含まれるが、特に都市部における生活様式の多様性を考慮すると、親子の共有時間についての、もう少し直接的な項目が必要であると考えていた。そこで「学校、塾、習い事、運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか?」という項目も1998年より調べている(表28)。その結果、「シンナー遊び」経験者群では非経験者群に比べて、一日3時間以上大人不在で過ごす者が有意に多いことがわかった。結局、夕食頻度の少なさも、親子の共有時間の少なさの一現れとして解釈できる。

また、中学生という年代は、基本的に親との相談頻度は低いようであるが(表29)、それでも「シンナー遊び」経験者群での相談頻度は有意に低く(表29)、ここでも「シンナー遊び」経験者群における親子の共有時間の少なさが示唆された。

以上により、今回も、「シンナー遊び」経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじめず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」⁵⁾¹⁶⁾¹⁸⁾が多いという推定が成り立つと考えている。

表11～表12は「シンナー遊び」をしている者について、どのような認識を持っているのかを調べたものである。表11～12では、経験者群と非経験者群での捉え方に、明らかな乖離が認められる。非経験者から見れば、経験者はほとんど「無関係」な人たち(95～96%)であり、経験者から見れば

表67 「シンナー遊び」に誘われたことのある者の率の推移 (有機溶剤乱用の生涯被誘惑率)(%)
(「無回答」を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.8	1.2	1.7	2.5	1.5	1.2	1.6	1.9	1.7	1.2	1.6	2.2	108	53,169
1998	2.0	1.0	1.9	2.9	1.5	0.9	1.5	2.0	1.7	0.9	1.7	2.5	148	67,776
2000	1.9	1.3	1.8	2.6	1.6	1.2	1.4	2.2	1.8	1.2	1.6	2.4	140	59,640
2002	1.6	1.1	1.7	1.9	1.6	1.3	1.7	1.9	1.6	1.2	1.7	1.9	149	59,988
2004	1.4	1.3	1.2	1.7	1.5	1.2	1.5	1.9	1.5	1.2	1.3	1.8	147	62,544

「気持ち可以理解できる気がする」人たちである割合が非常に高いということである。本研究者らは、「シンナー遊び」経験者にとってわかる気がするという、その気持ちとは、受容感と帰属感を求める「居場所のない子供たち」⁵⁾¹⁶⁾の共通の思いであろうと推測している。

有機溶剤乱用者への治療的介入の際に、当研究者らは、親の参加なくして子の回復はないと考えており、親子の共有時間を増やすことの重要性を説いているが⁵⁾¹⁶⁾¹⁸⁾、今回の結果もその有力な根拠である。

しかも、経験論的には、本調査の結果を保護者に紹介することが、保護者の意識変革には重要のようである。

4. 「シンナー遊び」による医学的害

薬物乱用防止には、薬物乱用による諸害をきちんと認識させることが重要である。ところが、「知識」があれば乱用しないかということ、そうとも言えない面がある。これまでの調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた⁵⁾¹⁰⁾¹³⁾¹⁴⁾²⁰⁾²¹⁾。

しかし、2002年調査では、急性中毒死、歯の腐食、多発神経炎に関する男子、精神病に関する男女では、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多く、それ以外の害知識でも、経験者群VS非経験者群で有意差が認められない項目が出てきた。今回の調査では、その傾向がさらに進み、急性中毒死、多発神経炎、精神病では、男女ともに非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が多いと言った結果であった。

これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説（薬物乱用防止教育はこの仮説を根拠としているわけであるが）があるとすれば、期待される結果であり、ここ数年の薬物乱用防止教育推進による成果の可能性が高い。

しかし、図6は害知識周知率の年次推移を示している。ほとんどの害知識の周知率が増加傾向にあることは好ましい傾向であるが、急性中毒死に関しては上昇率が鈍く、そもそも精神病に関する周知率以外は、決して高い周知率とは言えない。薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる。

表68 有機溶剤乱用による害知識周知率の推移 (%)

(「無回答」をそのまま生かし、「知っている」と答えた者の割合)

急性中毒死			
	男性	女性	全体
1996	59.9	64.6	62.2
1998	65.3	70.1	67.6
2000	60.5	66.8	63.6
2002	61.2	65.8	63.4
2004	63.1	66.4	64.7

歯の腐食			
	男性	女性	全体
1996	55.4	52.2	53.8
1998	53.2	51.0	52.2
2000	55.8	55.8	55.8
2002	60.9	62.2	61.5
2004	68.9	69.4	69.2

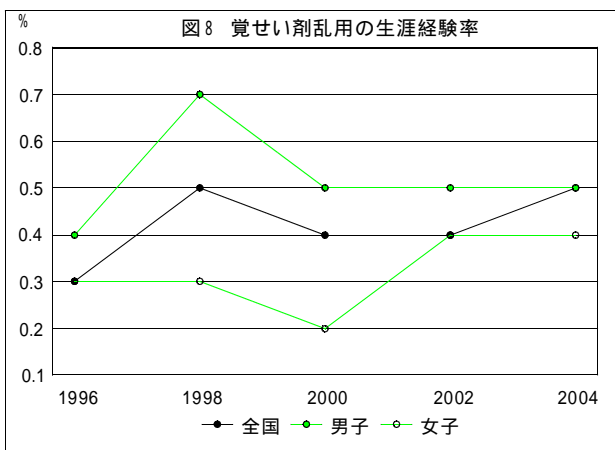
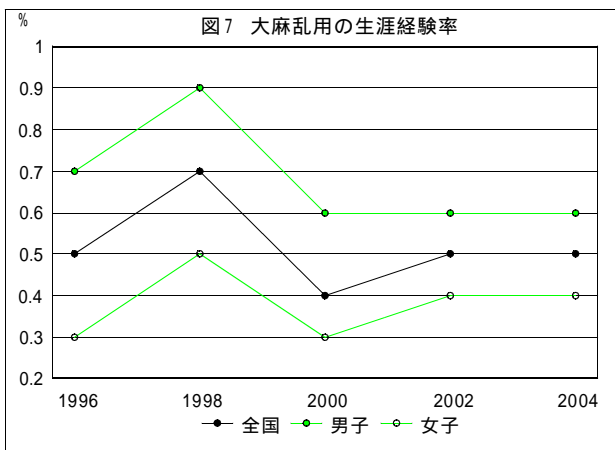
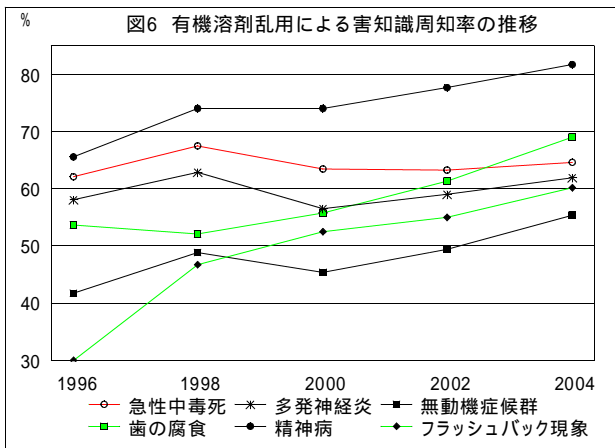
多発神経炎			
	男性	女性	全体
1996	55.9	60.3	58.1
1998	60.4	65.9	63.0
2000	53.1	60.1	56.6
2002	56.2	62.1	59.1
2004	59.4	64.7	62.0

精神病			
	男性	女性	全体
1996	64.1	67.2	65.7
1998	72.5	75.8	74.1
2000	72.0	76.4	74.2
2002	75.3	80.3	77.7
2004	79.8	84.0	81.9

無動機症候群			
	男性	女性	全体
1996	37.6	46.4	41.9
1998	45.3	53.0	49.0
2000	42.3	48.6	45.4
2002	46.6	52.6	49.5
2004	53.3	57.8	55.5

フラッシュバック現象

1996	29.9	30.3	30.1
1998	47.5	46.3	46.9
2000	51.3	53.6	52.5
2002	53.3	57.1	55.1
2004	59.2	61.5	60.3



なお、薬物乱用防止教育には、「知識が行動に結びつくとは限らない」という大きな課題が常に存在するわけで、これに関しては、知識教育を行った上で、次の段階として、薬物依存からの回復の苦しみをドキュメンタリー形式で紹介したビデオ（平成9年度文部省制作「なくした自由」）の活用が期待される。

5.大麻・覚せい剤の乱用経験

そもそも、大麻及び覚せい剤の乱用経験率は、調査結果上、これまで同様に「経験あり」よりは「無回答」の方が数字が大きいため（表53、表57）参考データとした方が妥当と思われるが、参考データは参考データなりに推移を見る必要がある。

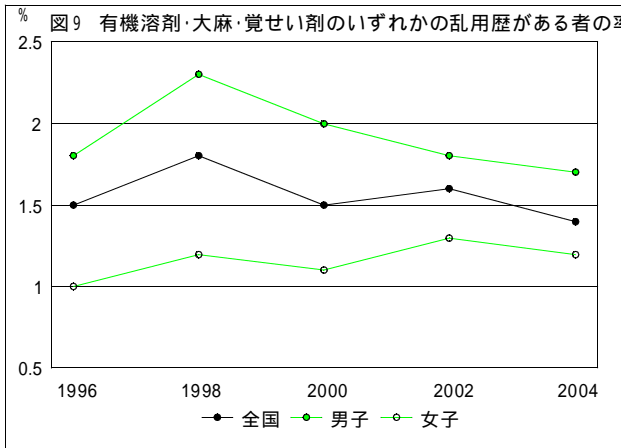
図7に見るように、男女全体での大麻の生涯経験率は、1998年調査に比べると、2000年調査では低下したものの、2002年調査からは平衡状態を示している。男女別では2002年調査との比較では、男女ともに変化がないが、2000年調査に比べて、2002年調査での女子における生涯経験率が全体を押し上げたことが読み取れる。

図8は覚せい剤の生涯経験率の推移を示している。男女全体での結果を見ると、大麻同様、1998年調査に比べると、2000年調査では低下したものの、2002年調査に比べると今期あの結果は再び増加を示している。結局これも、女子における増加傾向が全体を押し上げているようである。

第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つは、若年層までへの乱用の拡大であるが、その中でも女子における薬物乱用の拡大には注意を払う必要がある。

以上のように大麻・覚せい剤についての生涯経験率はあくまで参考データであるため、利用法に限界はあるものの、今日の薬物乱用状況を考えるためには貴重なデータであると考えている。

なお、参考までに有機溶剤・大麻・覚せい剤のいずれかの生涯経験率と大麻・覚せい剤のいずれかの生涯経験率を表71（図9）、表72（図10）に示した。2002年調査との比較では、女子の大麻ないしは覚せい剤乱用の生涯経験率を除けば、減少傾向にある。



6. 大麻・覚せい剤乱用による医学的害

大麻、覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、表56、表59の通りであるが、その推移を示したものが表73（図11、12）である。

大麻による精神病・無動機症候群に関しては、1998年調査の女性を除けば、2000年調査までは、男女ともに有機溶剤乱用群の方が周知率が有意に

表73 大麻及び覚せい剤乱用による害知識周知率の推移 (%)

（「無回答」をそのまま生かし、「知っている」と答えた者の割合）

大麻乱用による精神病、無動機症候群

	男性	女性	全体
1996	48.3	45.4	46.9
1998	48.0	46.4	47.2
2000	45.8	45.8	45.8
2002	52.4	56.4	54.4
2004	59.1	62.5	60.8

覚せい剤乱用による精神病、フラッシュバック現象

	男性	女性	全体
1996	42.5	46.5	44.5
1998	53.9	57.9	55.8
2000	55.4	61.3	58.3
2002	58.0	65.6	61.7
2004	62.5	66.9	64.6

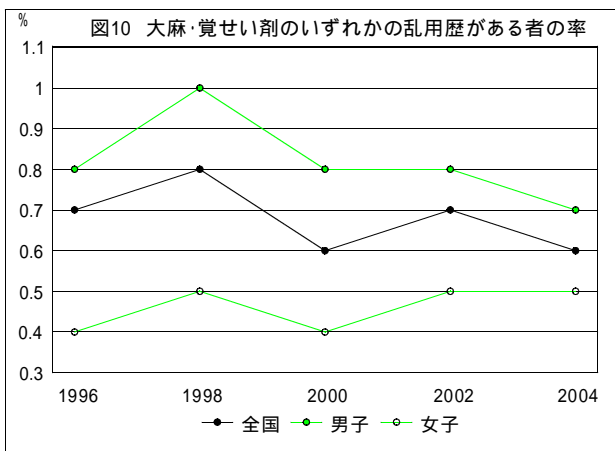
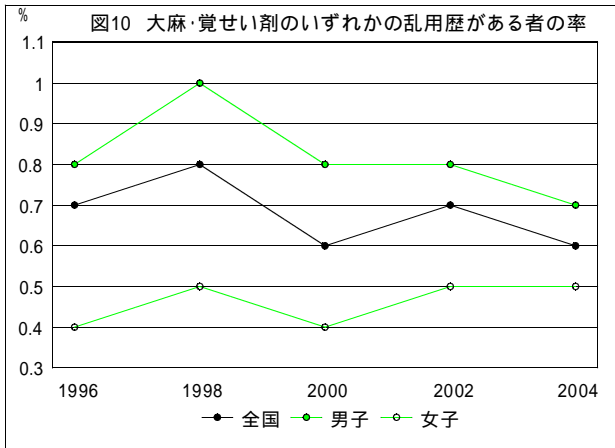


表69 大麻乱用の生涯経験率の推移 (%)（「無回答」を除いて計算したもの）

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.7	0.4	0.8	0.9	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.4	0.5	0.6	108	53,271
1998	0.9	0.8	0.8	1.0	0.5	0.5	0.4	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	148	70,846
2000	0.6	0.4	0.6	0.7	0.3	0.2	0.4	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	140	61,477
2002	0.6	0.4	0.8	0.7	0.4	0.3	0.6	0.4	0.5	0.4	0.7	0.5	149	62,255
2004	0.6	0.4	0.7	0.7	0.4	0.3	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	147	64,875

表70 覚せい剤乱用の生涯経験率の推移 (%)（「無回答」を除いて計算したもの）

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.4	0.3	0.4	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	108	53,197
1998	0.7	0.5	0.7	0.8	0.3	0.2	0.3	0.4	0.5	0.4	0.5	0.6	148	70,819
2000	0.5	0.5	0.5	0.6	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	140	61,457
2002	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	149	62,181
2004	0.5	0.4	0.6	0.7	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.6	147	64,886



高かった。しかし、2002年調査では、初めて有機溶剤乱用経験の有無による有意差がなくなり、今回の調査では、わずかではあるが、有機溶剤非経験者群の方が、「知っている」者の割合が高くなった（ただし有意差なし）。

また、覚せい剤乱用による精神病・フラッシュバック現象に関しては、男子では1996年調査、1998年調査では有機溶剤乱用群での周知率が高かったが、2000年調査、2002年調査では、有意差こそないものの、有機溶剤乱用非経験者群の方がわずかに周知率は高いというように変化した。しかし、今回は、再び、有機溶剤経験者群の方が「知っている者」の割合は高いという結果にもどってしまった。

図11、図12に見るように、害知識の周知率自体は年々上昇してはいるが、上記の観点から、なお一層の薬物乱用防止教育の推進が必要であると考えられる。

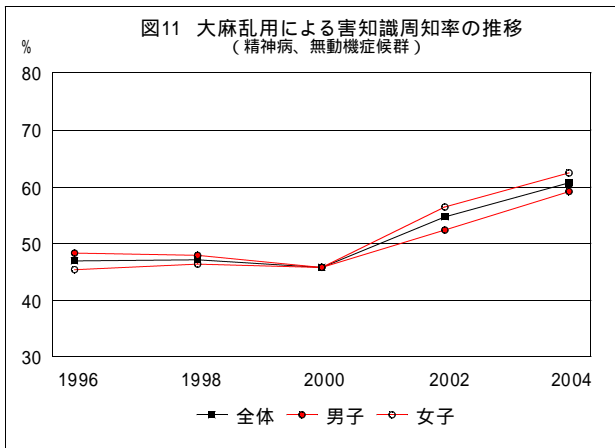
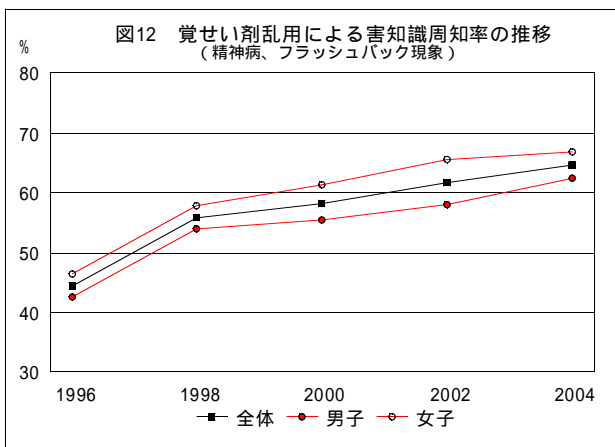


表74 違法薬物の入手可能性の比較
(「簡単に手に入る」と「少々苦労するが手に入る」を選択した者の合計)

有機溶剤			
	男性	女性	全体
1998	41.6	34.4	38.1
2000	41.1	35.6	38.4
2002	38.5	36.4	37.4
2004	25.6	23.1	24.4



大麻			
	男性	女性	全体
1998	23.2	21.1	22.2
2000	24.1	23.8	23.9
2002	25.1	26.2	25.7
2004	18.1	17.9	18.0

覚せい剤			
	男性	女性	全体
1998	24.0	22.6	23.4
2000	24.4	25.5	24.9
2002	25.0	27.7	26.4
2004	17.9	18.6	18.3

7. 違法薬物の入手可能性の比較

1993年以来、一部の外国人を中心に、大麻および覚せい剤が、大都会では路上で密売されるようになり、第3次覚せい剤乱用期を作り出した⁹⁾。その影響と思われるが、1996年の1年間に覚せい剤取締法により検挙された高校生の数は対前年度比2.3倍と激増した⁹⁾。いくら有機溶剤乱用の勢いが鈍ったと言っても、この現実、わが国の薬物汚染状況の深刻化を象徴する以外の何物でもない。

表74は、本調査による違法薬物の入手可能性の比較である。

有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その気になれば入手は極めて簡単である。しかし、表74の結果は入手可能を選んだ者が、予想外に少なく、今回の結果の低下には、少々驚きを隠せない(図13)。「シンナー遊び」のための「有機溶剤」という問いの言葉から、トルエンの入手を想定した者が多かった可能性もあるが、そもそもの有機溶剤乱用に関する関心のなさを現れとも考えられる。

ただし、大麻、覚せい剤の入手可能性に比べれば、有機溶剤の入手可能性が最も高いことは、事実と一致するところである。

大麻及び覚せい剤の入手可能性は、図13に見るように、今回の2004年調査では激減している。これは、この間の取締りの厳しさの反映の可能性はある。

ただし、この入手可能性を、有機溶剤乱用経験の有無を軸に見た場合(表61、表62)、大麻の入手可能性では、「簡単に手に入る」「少々苦労するが、なんとか手に入る」を選んだ者の合計を入手可能群とすると、その割合は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で18%、女子で17%であるのに対して、経験者群では、男子で46%、女子で52%と明らかに異なっていた($p<0.01$)(表61)。

このことは覚せい剤の入手可能性についても同じであり。入手可能群の割合は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で17%、女子で18%であり、経験者群では、男性で45%、女性で54%となっていた($p<0.01$)(表62)。

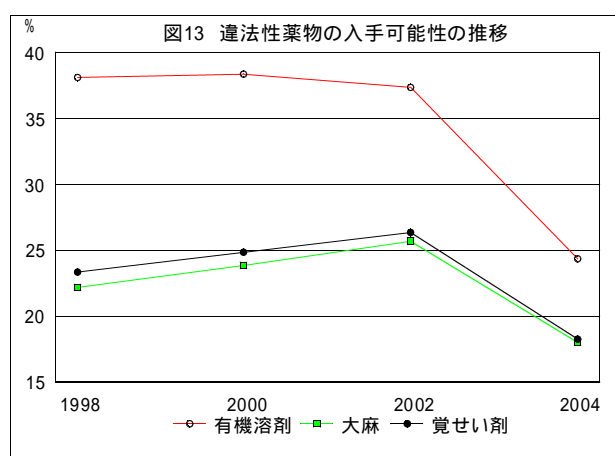


表71 有機溶剤・大麻・覚せい剤のいずれかの乱用の生涯経験率 (%)

(無回答を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	1.8	1.5	1.8	2.2	1.0	0.9	1.0	1.0	1.5	1.3	1.5	1.7	108	54,136
1998	2.3	1.8	2.1	2.9	1.2	1.2	1.1	1.3	1.8	1.5	1.6	2.2	148	71,245
2000	2.0	1.7	2.0	2.3	1.1	1.0	1.0	1.2	1.5	1.4	1.5	1.8	140	61,481
2002	1.8	1.7	1.9	1.9	1.3	1.2	1.4	1.3	1.6	1.5	1.7	1.6	149	61,668
2004	1.7	1.4	1.5	1.9	1.2	1.1	1.2	1.2	1.4	1.2	1.3	1.6	147	64,314

表72 大麻・覚せい剤のいずれかの乱用の生涯経験率 (%) (無回答を除いて計算したもの)

	男性	1年生	2年生	3年生	女性	1年生	2年生	3年生	全体	1年生	2年生	3年生	校数	人数
1996	0.8	0.5	0.8	1.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.7	0.8	108	54,116
1998	1.0	0.9	1.0	1.2	0.5	0.5	0.5	0.6	0.8	0.7	0.8	0.9	148	71,245
2000	0.8	0.6	0.7	0.9	0.4	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.6	140	61,481
2002	0.8	0.6	0.9	0.8	0.5	0.4	0.6	0.6	0.7	0.5	0.8	0.7	149	61,668
2004	0.7	0.5	0.8	0.8	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6	0.7	147	64,610

これらの結果は、わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用すると言うことは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を示唆している。

8. 薬物乱用に対する法の遵守性

わが国の規制薬物乱用が、多くの国に比べて少ない背景には、国民の法に対する遵守性の高さがあるのではないかと本研究者は推定している。

喫煙については全体の10.8% (表34)の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関してそれを選んだ者は2.4% (表9)に過ぎず、大麻では1.4% (表55)であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。(覚せい剤に関しては、尋ねていない)

しかも、表54と表58に示したように、「シンナー遊び」の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験とは、強い結びつきがあり、わが国では依然として有機溶剤が大麻・覚せい剤への「ゲイトウェイ・ドラッグ」となっている可能性が強く示唆される³⁾²²⁾。

9. 「ゲイトウェイ・ドラッグ」としてのタバコとアルコール

中学生における喫煙及び飲酒が「シンナー遊び」への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高いことは以前より指摘してきたが³⁾⁵⁾⁶⁾¹⁴⁾²²⁾、表50及び表52の結果は、大人が同伴しない飲酒と「シンナー遊び」との結びつきの強さと、喫煙経験と「シンナー遊び」との結びつきの強さを再確認させるものである。この背景には、有機溶剤乱用同様に、家庭環境、「仲間」関係等、薬物乱用の背後にある人間関係が大きな要因となっていると推定できる。

中学生における喫煙・飲酒・薬物乱用防止を行う際には、喫煙・飲酒・薬物乱用といった表面的行為に目を奪われすぎることなく、その背後に潜む家庭環境、「仲間」関係等の人間関係に目を注ぐことが重要であろう¹⁶⁾。

E. 結論

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料に供するために、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。調査期間は、2004年10月中(一部11~12月中)であり、層別一段集落抽出法により選ばれた全国212校の全生徒を対象に、自記式調査を実施した。その結果、147校(対象校の69.3%)より、65,611人(対象校212校の全生徒想定数の61.4%)の回答を得た。有効回答数は65,552人(対象校212校の全生徒想定数の61.3%)であった。

ただし、回答が得られなかった県が3県あり、都道府県毎の回答率には、未だにばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した男子は1.3%(1年生1.2%、2年生1.1%、3年生1.6%)、女子では1.0%(1年生0.9%、2年生1.0%、3年生1.0%)、全体では1.1%(1年生1.1%、2年生1.1%、3年生1.3%)であった。

この結果は、男女合わせた全体では、1996年に開始した一連の本調査では、1996年調査とともに最低の値である。特に男子ではこれまでの最低の値となった。しかし、女子ではこれまで最高であった2002年調査と同じ値であった。

男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用の目撃率に関しては男性、女性、全体の全てにおいて、1996年以降、着実に低下しており(全体で11.8%から5.6%)、「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから着実に減少していた(全体で5.4%から3.3%)。

また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は、男子では1998年調査以降減少傾向にあり、今回の調査では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。

以上を総合すると、男女合わせた全体では、有機溶剤乱用の勢いは、確実に弱くなってきていると考えられる。それは男子における各種指標に対する低値化によると考えられるが、逆に、女子における各値は増加ないしは横這い状態にあり、女子における有機溶剤乱用の今後が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の共有時間が少ない傾向が伺われた。

結局、有機溶剤経験者群は、相対的に見れば、家庭にも、学校にもなじめず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推測することができよう。

また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。

これまでの一連の本調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、有機溶剤の乱用による害としての急性中毒死、多発神経炎、精神病に関しては、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が男女ともに多いという結果が初めて出た。これは、「害を知らない者が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、「望むべき姿」である。

以上及び生涯経験率の低下を総合して、薬物乱用防止教育の成果が着実にできていると考えられる。

しかし、歯の腐食に関しては、2002年調査の男子で、「知っている」と答えた者が有機溶剤非乱用経験者群の方が多いという結果が初めて出たにも関わらず、今回の2004年調査では経験者群の方が多いという従来型に逆戻りしてしまったり、無動機症候群、フラッシュバック現象では、相変わらず従来型のままであったりし、なお一層の薬物乱用防止教育の推進が望まれるところである。

大麻の生涯経験率は、男子で0.6%（1年生0.4

%、2年生0.7%、3年生0.7%）、女子で0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.5%）全体で0.5%（1年生0.4%、2年生0.5%、3年生0.6%）であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.5%（1年生0.4%、2年生0.6%、3年生0.7%）、女子で0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.4%）全体で0.5%（1年生0.3%、2年生0.5%、3年生0.6%）であった。

大麻に関しては男女を問わない全体では、1998年に記録した最高値（0.7%）よりは低いですが、2002年調査の結果と同じであった。

覚せい剤に関しては、1998年に記録した最高値（0.5%）と同じ結果であり、2002年調査の結果よりは0.1%増加していた。

性別では、大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は2002年調査とほぼ同じであった。

ただし、生涯経験者数は無回答者数よりも少なく、その意味では参考データの意味合いが否定できない。

大麻及び覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、増加傾向にあり歓迎されるが、そもそもの周知度自体が高いとは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その入手可能性は大麻や覚せい剤よりは高かった。しかし、2004年調査では、その入手可能性はこれまでに激減していた。また、大麻、覚せい剤の入手可能性は1998年以降、着実に増加していたが、今回の2004年調査では、激減していた。

これらは、この間の取り締まりの強化による成果の可能性が高い。

ただし、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が、大麻でも覚せい剤でも男女ともに66%であるのに対して、有機溶剤乱用経験者群では、大麻に関しては男子で46%、女子で52%の者が、また、覚せい剤に関しては男子で46%、女子で54%の者が入手可能を選択していた。

わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用するということは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を強く示唆する結果であった。さらに、覚せい剤の入手可能性は有機溶剤乱用経験群女子で最も高いという結果であった。女子に対する対策が望まれるところである。

薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響すると考えられる。喫煙については全体の10.

8%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関してそれを選んだ者は2.4%に過ぎず、大麻では1.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。

また、有機溶剤乱用経験者群の25%の者に大麻乱用の経験があり、24%の者に覚せい剤乱用の経験があり、有機溶剤乱用と大麻・覚せい剤乱用との間には強い結びつきがあることが認められた。同時に、喫煙経験と有機溶剤乱用経験との間にも結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

謝辞

本調査研究にご協力いただいた多くの学校関係者、生徒、ならびに、本調査の実施に関して御尽力をいただいた多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

また、調査用紙回収後の膨大な資料整理に協力をしていただいた、東京ダルク、千葉ダルクの協力者に感謝いたします。

参考文献

- 1)尾崎 茂、和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．平成14年度厚生労働科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)研究報告書「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」(主任研究者：和田 清)．pp.87-128．2003．
- 2) 和田 清,福井 進:覚せい剤精神病の臨床症状--覚せい剤使用年数との関係--. アルコ - ル研究と薬物依存 25:143-158,1990.
- 3) 和田 清：“Gateway Drug”概念について．日本アルコール・薬物医学会雑誌 34(2)：95-106, 1999.
- 4) Wada,K., Fukui, S.: Demographic and Social Characteristics of Solvent Abuse Patients in Japan. The American Journal on Addictions 3:165-176, 1994.

- 5) Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.
- 6) Wada, K, Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46: 137-145, 1997.
- 7) Wada, K, Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.
- 8) 和田 清：中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999.
- 9)和田 清：薬物乱用の現状と歴史．神経精神薬理 19: 913-923, 1997.
- 10) 和田 清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成8年度厚生科学研究費補助金(麻薬等対策総合研究事業)研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」(主任研究者：寺元 弘)第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究(2)．pp.21-60．1997．
- 11) 文部省大臣官房調査統計企画課：全国学校総覧2004年版．原書房．東京．2004.
- 12)Wada, K.: Prevalence of Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan and Their Background Lifestyle: Result of Chiba Prefecture Survey 1994. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 37: 41-56, 2002.
- 13)和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成10年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研

究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究(主任研究者:和田 清). pp.19-83. 1999.

14) 和田 清:中学生における有機溶剤乱用の実態とその生活背景 - 1992年千葉県調査より - . 学校保健研究 43:26-38, 2001.

15)和田 清:中学生における「シンナ - 遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究. 平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究(主任研究者:福井 進)平成5年度研究成果報告書. pp.27-54. 1994.

16) 和田 清:有機溶剤乱用発生の社会的背景--青少年にとり有機溶剤とは何か-- . アルコール医療研究 8: 179-184, 1991.

17)和田 清:中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌34: 36-48, 1999.

18)和田 清:有機溶剤乱用と家族. 精神保健研究 7: 13-17, 1994.

19)Wada, K.: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 36: 124-141, 2001.

20) 和田 清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾:薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成12年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」(主任研究者:和田 清). pp.15-76. 2001.

21) 和田 清、畢 穎、尾崎米厚、勝野眞吾:薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査(2002年). 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)研究報告書「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」(主任研究者:和田 清).pp.19-86. 2003.

22) 和田 清:有機溶剤吸引の入り口としての喫煙:1994年千葉県中学生調査より. 学校保健研究 45:512-527,2004.

分担研究者らによる一連の中学生調査に関する報告書、論文一覧

		報告書	論文
1990年	千葉県12校	福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物乱用・依存の実態と動向に関する研究 - 中学生における「シンナー遊び」の実態とその背景 - .(班長)佐藤光源 . 厚生省「精神・神経疾患研究委託費」2指-13 . 薬物依存の発生機序と臨床及び治療に関する研究 . 平成2年度研究成果報告書 . pp.27-34, 1991 .	Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and backgroundlife style of users. Addiction 88: 89-100, 1993. Wada,K., Fukui, S.: Prevalence of tobacco smoking among junior high school students in Japan and backgroundlife style of users. Addiction 89: 331-343, 1994. Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46:137-145, 1997. Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of AlcoholUse and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998. 和田 清：中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 - . 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999 .
1992年	千葉県14校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究 . 平成4年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成4年度研究成果報告書 . pp25-64, 1993. 3.	Wada, K,: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 36: 124-141, 2001. 和田 清：中学生における有機溶剤乱用の実態とその生活背景 - 1992年千葉県調査より - . 学校保健研究 43 :26-38, 2001 .
1993年	関東地方14校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査	Kikuchi, A., Wada, K.: Factors Associated with Volatile Solvent Use

		研究．平成5年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成5年度研究成果報告書．pp27-54, 1994. 3.	among Junior High School Students in Kanto, Japan. Addiction 98: 771-784, 2003.
1994年	千葉県15校 中国地方U市 12校	和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成6年度厚生科学研究（麻薬等対策総合研究事業）薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成6年度研究成果報告書．pp35-60, 1995. 3.	Wada, K.: Prevalence of Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan and Their Background Lifestyle: Result of Chiba Prefecture Survey 1994. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 37: 41-56, 2002. 和田 清：有機溶剤吸引の入り口としての喫煙：1994年千葉県中学生調査より．学校保健研究45:512-527, 2004.
1996年	全国108校	和田 清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）. pp.21-60 . 1997 .	
1998年	全国148校	和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田 清）. pp.19-83 . 1999 .	
2000年	全国140校	和田 清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）研究報告書「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神障害者等に対する適切な医療のあり方についての研究」（主任研究者：和田	

		清). pp.15-76 . 2001.	
2002年	全国149校	和田 清、畢 穎、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査(2002年) . 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業) 研究報告書「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」(主任研究者：和田 清). pp.19-86 . 2003.	
2004年	全国147校	今回の報告書	

飲酒・喫煙・薬物乱用についての意識・実態調査

(第7版-04)

飲酒・喫煙・薬物乱用は、心と体の両面にさまざまな害を及ぼします。

この調査は、中学生が飲酒・喫煙・薬物乱用をどのように考えており、また、実際にどのくらいの人が飲酒・喫煙・薬物乱用を経験しているのかを調べ、今後の対策の参考にします。

答えにくい質問には答えなくても結構ですが、この調査では、回答者が誰かわからないように以下のような配慮がなされています。

- ・この調査用紙には、氏名など個人を見つけ出せそうなものを書くところはありません。
- ・先生には、必要に応じて、生徒の質問に答えていただきますが、必要以上に生徒の所には行かず、生徒が書きやすいように努めていただきます。
- ・書き終わったら、配られた封筒に用紙を入れて必ず封をし、先生の持っている大きな袋に封筒ごと入れてください。
- ・調査用紙は、封を切られることなく（学校の先生などに結果を知られることなく）、下記の研究室に運ばれ、研究室で開封し、厳重に保管され、研究以外の目的には使用しません。
- ・調査結果は、全体でまとめて処理します。個人が特定されることはありません。

各質問に対する回答は、ことわりがない限り、自分の場合に最も近いものの数字を一つだけ、丸で囲んでください。

実施機関：国立精神・神経センター - 精神保健研究所 薬物依存研究部 千葉県市川市国府台1-7-3 TEL.047-372-0141

-
- (質問1) あなたは男性ですか、女性ですか？ 1. 男性 2. 女性
- (質問2) あなたは中学何年生ですか？ 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生
- (質問3) あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ
- (質問4) あなたの就寝時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ
- (質問5) あなたは、毎朝、朝食を食べていますか？ 1. ほとんど毎日食べている
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない
- (質問6) あなたにとって、学校生活は次のどれですか？ 1. とても楽しい。
2. どちらかといえば楽しい
3. あまり楽しくない
4. まったく楽しくない
- (質問7) あなたはクラブ活動(部活)に参加していますか？ 1. 積極的に参加している
2. 消極的に参加している
3. 参加していない
- (質問8) あなたは、母親と週何回くらい夕食を食べますか？ 1. ほとんど毎日 2. 5~6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後
6. ほとんど食べない 7. 母親がいない(単身赴任、死別、別居、離婚など)

(質問9) あなたは、父親と週何回くらい夕食を食べますか？

1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後
6. ほとんど食べない。 7. 父親がいない(たんしんぷにん 単身赴任、死別、別居、離婚など)

(質問10) あなたは、夕食を週何回くらい家族全員で食べますか？

1. ほとんど毎日 2. 5～6回 3. 4回前後 4. 3回前後 5. 2回前後
6. ほとんど食べない

(質問11) あなたは、学校・塾・習い事・運動での時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの程度の時間を過ごしますか？

1. なし、あるいは、ほとんどなし 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上

(質問12) あなたは、親しく遊べる友人がいますか？

1. いる 2. いない

(質問13) あなたは、相談事のできる友人がいますか？

1. いる 2. いない

(質問14) あなたは、悩みごとがある時、親と相談する方だと思いますか？

1. よく相談する方である 4. ほとんど相談しない方である
2. どちらかと言えば相談する方である 5. 親がいない(たんしんぷにん 単身赴任・死別・別居・離婚など)
3. どちらかと言えば相談しない方である

(質問15) あなたは、これまでに一回でも、タバコを吸ったことがありますか？

(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

1. 吸ったことがない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳
6. 14歳 7. 15歳以上 8. 吸ったことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問16) あなたは、この1年間で、タバコを吸ったことがありますか？

1. 一度も吸わなかった 2. 1年間で1～数回吸った 3. 月に数回吸った
4. 週に数回吸った 5. ほとんど毎日吸った

(質問17) あなたは、健康面から、喫煙をどう思いますか？

1. 害ばかりで、良い面はないと思う
2. 害もあるが、良い面もあると思う
3. 害よりも、良い面の方が多いと思う

(質問18) 未成年者の喫煙は法律で禁じられていますが、あなたは未成年者の喫煙をどう思いますか？

1. 法律で禁じられているから、吸うべきでないと思う
2. 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁じられてはいるが、全然かまわないと思う

(質問19) あなたは、未成年者の喫煙禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 成人が吸えて、未成年者が吸えないのはおかしいと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問20) あなたは、これまでに、下記の時に、一回でも、アルコ-ル(ビ-ル、日本酒、焼酎^{しょうちゅう}、ワイン、ウイスキー-など)を飲んだことがありますか？

(いくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。)

1. 飲んだことがない
2. 冠婚葬祭(結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など)の時に飲んだことがある
3. 家族での食事などの時に、家族といっしょに飲んだことがある
4. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
5. カラオケボックス、居酒屋、飲み屋などで、仲間と飲んだことがある
6. 自分や誰かの部屋で、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問21) あなたは、上記のいずれかの機会に、初めてアルコ-ルを飲んだのは、何歳の時ですか？

(なめただけの場合は、含めないで下さい。)

1. 飲んだことがない
2. 10歳以下
3. 11歳
4. 12歳
5. 13歳
6. 14歳
7. 15歳以上
8. 飲んだことはあるが、年齢はおぼえていない

(質問22) あなたは、この1年間に一回でも、アルコ-ルを飲んだことがありますか？

(飲んだことのある機会をいくつ選んでもけっこうですが、なめただけの場合は、含めないで下さい。ただし、「1」を選んだときには、その他は選ばないでください。)

1. 飲んだことがない
2. 冠婚葬祭(結婚式・祭り・葬式・法事・盆・正月など)の時に飲んだことがある
3. 家族での食事などの時に、家族といっしょに飲んだことがある
4. クラス会、打ち上げ、友達とのパーティーの時に、仲間と飲んだことがある
5. カラオケボックス、居酒屋、飲み屋などで、仲間と飲んだことがある
6. 自分や誰かの部屋で、仲間と飲んだことがある
7. 一人で飲んだことがある

(質問23) あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度でアルコ-ルを飲みましたか？

1. 一度も飲まなかった
2. 1年間で1~数回飲んだ
3. 月に数回飲んだ
4. 週に数回飲んだ
5. ほとんど毎日飲んだ

(質問24) あなたは、健康面から、飲酒をどう思いますか？

1. 害ばかりで、良い面はないと思う
2. 害もあるが、良い面もあると思う
3. 害よりも、良い面の方が多いと思う

(質問25) 未成年者の飲酒は禁止されていますが、あなたは、未成年者の飲酒をどう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、飲むべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、時と場合に応じては、かまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、全然かまわないと思う

(質問26) あなたは、未成年者の飲酒禁止をどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 成人が飲めて、未成年者が飲めないのはおかしいと思う

4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問27) あなたは、「シンナ - 遊び」をしているところを実際に見たことがありますか？
1. ない 2. ある

(質問28) あなたの身近に、「シンナ - 遊び」をしている人がいますか？ 1. いない 2. いる

(質問29) あなたは、「シンナ - 遊び」に誘われたことがありますか？ 1. ない 2. ある

(質問30) 「シンナ - 遊び」について、あなたの気持ちは次のどれに最も近いですか？

1. 関心がない 2. 見てみたい 3. 試してみたい 4. 経験がある

(質問31) あなたは、「シンナ - 遊び」をしている人について、どう思いますか？

1. 自分には無関係の人だと思う
2. 「シンナ - 遊び」をする気持ちが理解できる気がする
3. 親しみを感じる

(質問32) あなたは、「シンナ - 遊び」をしている人と親しくなることについて、どう考えますか？

1. 親しくなりたくない
2. 「シンナ - 遊び」だけで決めたくはない
3. すでに親しい

(質問33) あなたは、これまでに一回でも、「シンナ - 遊び」を経験したことがありますか？

(ある場合は、初めて経験した時の年齢を選んでください。)

1. 経験がない 2. 10歳以下 3. 11歳 4. 12歳 5. 13歳 6. 14歳
7. 15歳以上 8. 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問34) あなたは、この1年間に一回でも、「シンナ - 遊び」をしたことがありますか？

1. ない 2. ある

(質問35) 「シンナ - 遊び」は法律で禁止されていますが、あなたは「シンナ - 遊び」について、どう思いますか？

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、それを守る必要は全然ないと思う

(質問36) あなたは、法律で「シンナ - 遊び」を禁止しているのをどう思いますか？

1. 当然だと思う
2. しかたのないことだと思う
3. 麻薬・覚せい剤とちがって、シンナ - くらい禁止しなくてもいいのではないかと思う
4. そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

(質問37) あなたは、「シンナ - 遊び」で死亡すること(急性中毒死)があるのを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問38) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(質問39) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること(多発神経炎)があるのを知っていますか？

- 1 . 知っている 2 . 知らない

(質問40) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何もないのに物が見えたり(幻視)、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり(幻聴)、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込んだり(妄想)する状態(精神病状態)になることがあるのを知っていますか？

- 1 . 知っている 2 . 知らない

(質問41) あなたは、「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなること(無動機症候群)を知っていますか？

- 1 . 知っている 2 . 知らない

(質問42) あなたは、「シンナ - 遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治して治っても、その後「シンナ - 遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること(フラッシュバック)があるのを知っていますか？

- 1 . 知っている 2 . 知らない

(質問43) あなたは、「シンナー遊び」をしている人たちは、どうして「シンナ - 遊び」するのだと思いますか？(いくつ選んでもけっこうです。)

- 1 . 本人に問題があるから 2 . 家庭に問題があるから
3 . 学校に問題があるから 4 . 社会に問題があるから

(質問44) あなたは、これまでに一回でも、大麻(マリファナ、ハッシュ)も同じものです)を吸ったことがありますか？(ある場合は、初めて吸った時の年齢を選んでください。)

- 1 . 経験がない 2 . 10歳以下 3 . 11歳 4 . 12歳 5 . 13歳 6 . 14歳
7 . 15歳以上 8 . 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問45) あなたは、大麻を吸うことをどう思いますか？

- 1 . 吸うべきではないと思う
2 . 麻薬・覚せい剤とちがって、少々ならかまわないと思う
3 . まったくかまわないと思う

(質問46) あなたは大麻を吸うと、上記の質問40や質問41と同じ精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

- 1 . 知っている 2 . 知らない

(質問47) あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤(スピード、エスも同じものです)を使用したことがありますか？(ある場合は、初めて使用した時の年齢を選んでください。)

- 1 . 経験がない 2 . 10歳以下 3 . 11歳 4 . 12歳 5 . 13歳 6 . 14歳
7 . 15歳以上 8 . 経験はあるが、年齢はおぼえていない

(質問48) 覚せい剤を使うと、上記の質問40と同じ精神病状態になりやすく、また質問42のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？

1 . 知っている 2 . 知らない

(質問49) あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 . 絶対不可能だ | 2 . ほとんど不可能だ |
| 3 . 少々苦勞するが、なんとか手に入る | 4 . 簡単に手に入る |

(質問50) あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 . 絶対不可能だ | 2 . ほとんど不可能だ |
| 3 . 少々苦勞するが、なんとか手に入る | 4 . 簡単に手に入る |

(質問51) あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 . 絶対不可能だ | 2 . ほとんど不可能だ |
| 3 . 少々苦勞するが、なんとか手に入る | 4 . 簡単に手に入る |

ご協力ありがとうございました。

薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（2004年） - 要約版 -

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センタ - 精神保健研究所薬物依存研究部長
研究協力者 近藤あゆみ 同上（賃金研究員）、高橋伸彰（流動研究員）
鈴木紀美子 同上（研究助手）
尾崎米厚 鳥取大学医学部 環境予防医学 助教授
勝野真吾 兵庫教育大学 学校教育学部 教授

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料に供するために、飲酒、喫煙、有機溶剤・大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態調査を実施した。調査期間は、2004年10月中（一部11～12月中）であり、層別一段集落抽出法により選ばれた全国212校の全生徒を対象に、自記式調査を実施した。その結果、147校（対象校の69.3%）より、65,611人（対象校212校の全生徒想定数の61.4%）の回答を得た。有効回答数は65,552人（対象校212校の全生徒想定数の61.3%）であった。

ただし、回答が得られなかった県が3県あり、都道府県毎の回答率には、未だにばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した男子は1.3%（1年生1.2%、2年生1.1%、3年生1.6%）、女子では1.0%（1年生0.9%、2年生1.0%、3年生1.0%）、全体では1.1%（1年生1.1%、2年生1.1%、3年生1.3%）であった。

この結果は、男女合わせた全体では、1996年に開始した一連の本調査では、1996年調査とともに最低の値である。特に男子ではこれまでの最低の値となった。しかし、女子ではこれまでで最高であった2002年調査と同じ値であった。

男子では1998年以降減少しているのに対して、女子では1996年以来増加傾向にあり、女子での今後が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用の目撃率に関しては男性、女性、全体の全てにおいて、1996年以降、着実に低下しており（全体で11.8%から5.6%）、「身近に経験者がいる」と答えた者の率も、1998年のピークから

着実に減少していた（全体で5.4%から3.3%）。

また、有機溶剤乱用に「誘われた」ことのある者の率は、男子では1998年調査以降減少傾向にあり、今回の調査では1996年以降の最低を示したが、女子では1996年以降ほとんど横這いであり、女子における「誘い」が危惧される結果であった。

以上を総合すると、男女合わせた全体では、有機溶剤乱用の勢いは、確実に弱くなってきていると考えられる。それは男子における各種指標に対する低値化によると考えられるが、逆に、女子における各値は増加ないしは横這い状態にあり、女子における有機溶剤乱用の今後が危惧される結果であった。

有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、親子の共有時間が少ない傾向が伺われた。

結局、有機溶剤経験者群は、相対的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推測することができよう。

また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が再確認された。

これまでの一連の本調査では、往々にして、害知識は有機溶剤乱用経験者群の方が高いという傾向が認められていた。しかし、今回の調査では、有機溶剤の乱用による害としての急性中毒死、多発神経炎、精神病に関しては、非経験者群の方で「知っている」を選んだ者が男女ともに多いという結果が初めて出た。これは、「害を知らない者

が乱用しやすい」という仮説があるとすれば、「望むべき姿」である。

以上及び生涯経験率の低下を総合して、薬物乱用防止教育の成果が着実にできていると考えられる。

しかし、歯の腐食に関しては、2002年調査の男子で、「知っている」と答えた者が有機溶剤非乱用経験者群の方が多という結果が初めて出たにも関わらず、今回の2004年調査では経験者群の方が多という従来型に逆戻りしてしまったり、無動機症候群、フラッシュバック現象では、相変わらず従来型のままであったりし、なお一層の薬物乱用防止教育の推進が望まれるところである。

大麻の生涯経験率は、男子で 0.6%（1年生0.4%、2年生0.7%、3年生0.7%）、女子で 0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.5%）、全体で 0.5%（1年生0.4%、2年生0.5%、3年生0.6%）であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で 0.5%（1年生0.4%、2年生0.6%、3年生0.7%）、女子で 0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.4%）、全体で 0.5%（1年生0.3%、2年生0.5%、3年生0.6%）であった。

大麻に関しては男女を問わない全体では、1998年に記録した最高値（0.7%）よりは低いですが、2002年調査の結果と同じであった。

覚せい剤に関しては、1998年に記録した最高値（0.5%）と同じ結果であり、2002年調査の結果よりは0.1%増加していた。

性別では、大麻でも覚せい剤でも生涯経験率は2002年調査とほぼ同じであった。

ただし、生涯経験者数は無回答者数よりも少なく、その意味では参考データの意味合いが否定できない。

大麻及び覚せい剤乱用による医学的害知識の周知度は、増加傾向にあり歓迎されるが、そもそもの周知度自体が高いとは言えず、薬物乱用防止教育の一層の推進が望まれる結果であった。

違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その入手可能性は大麻や覚せい剤よりは高かった。しかし、2004年調査では、その入手可能性はこれまでに激減していた。また、大麻、覚せい剤の入手可能性は1998年以降、着実に増加していたが、今回の2004年調査では、激減していた。

これらは、この間の取り締まりの強化による成果の可能性が高い。

ただし、有機溶剤乱用非経験者群では「絶対不可能」を選択した者が、大麻でも覚せい剤でも男女ともに66%であるのに対して、有機溶剤乱用経験者群では、大麻に関しては男子で46%、女子で52%の者が、また、覚せい剤に関しては男子で46%、女子で54%の者が入手可能を選択していた。

わが国の中学生にとって、有機溶剤を乱用するということは、大麻、覚せい剤が身近なものになるという特徴を強く示唆する結果であった。さらに、覚せい剤の入手可能性は有機溶剤乱用経験者女子で最も高いという結果であった。女子に対する対策が望まれるところである。

薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響すると考えられる。喫煙については全体の10.8%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関してそれを選んだ者は2.4%に過ぎず、大麻では1.4%であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤及び大麻乱用への心理的垣根は喫煙よりはるかに高いことを物語っている。

また、有機溶剤乱用経験者群の25%の者に大麻乱用の経験があり、24%の者に覚せい剤乱用の経験があり、有機溶剤乱用と大麻・覚せい剤乱用との間には強い結びつきがあることが認められた。同時に、喫煙経験と有機溶剤乱用経験の間にも結びつきが認められた。このことは、わが国の中学生では、喫煙 有機溶剤乱用 大麻・覚せい剤乱用という流れがあることを強く示唆する結果であった。

